

主体的に読書活動をする子どもの育成をめざして（2年次）

— 学校図書館の機能を活かした年間計画と読書活動の試み —

現行の学習指導要領では、学習活動や読書活動充実のために、学校図書館を利用し活用していくことを求めている。昨年度の研究では、教科等の学習と関連させて読書への働きかけを行うと、子どもたちの読書活動が充実することを検証してきた。

そこで本研究では昨年度作成した読書活動年間計画に、さらに学校図書館の機能を活用するメディア活用能力を育てる学び方の指導を取り入れた読書活動計画を作成し、それに基づいて行った第1, 3, 5学年の実践例について報告する。

目 次

はじめに …………… 1	第2節「学び方の指導」を取り入れた 学習活動の試み
第1章 今, 求められる 学校図書館の利用とその機能の活用	(1) 第1学年 国語科と関連させた 「学び方の指導」の実際 …… 15
第1節 学校図書館の歴史的な背景	(2) 第3学年 国語科と関連させた 「学び方の指導」の実際 …… 19
(1) 全国的な動きから …………… 1	(3) 第5学年 国語科と関連させた 「学び方の指導」の実際 …… 25
(2) 京都市の動きから …………… 4	
第2節 学校図書館の機能を学習に活かす	第3章 学習を支える図書館教育
(1) 『メディア活用能力を育てる 学び方の指導体系表』の作成 …… 6	第1節 国語科と関連させることで
(2) 国語科と関連させた図書館教育 …… 9	(1) 読書活動の広がり …………… 29
第2章 子どもたちの読書活動を すすめていくために	(2) 学習活動への波及 …………… 30
第1節 計画的な指導に向けて	第2節 充実した読書活動に向けて
(1) 年間計画作成の必要性 …………… 11	(1) 他教科へと広げるために …………… 32
(2) 「学び方の指導内容一覧表」に基づく 読書活動計画の作成 …… 13	(2) 並行して求められる日々の取組 …… 33
	おわりに …………… 34
	付 表
	(1) 低学年の『メディア活用能力を育てる 学び方の指導』内容一覧表 …… 35
	(2) 第1学年 読書活動計画例 …………… 36
	(3) 中学年の『メディア活用能力を育てる 学び方の指導』内容一覧表 …… 37
	(4) 第3学年 読書活動計画例 …………… 38
	(5) 高学年の『メディア活用能力を育てる 学び方の指導』内容一覧表 …… 39
	(6) 第5学年 読書活動計画例 …………… 40

<研究担当> 寺 島 三矢子 (京都市総合教育センター研究課研究員)

<研究指導> 外 川 正 明 (京都市総合教育センター研究課指導主事)

<研究協力員> 山 岡 美 樹 (京都市立明德小学校教諭)

土江田 郁 子 (京都市立花園小学校教諭)

柳 田 典 子 (京都市立宇多野小学校教諭)

はじめに

平成13年12月に制定された『子どもの読書活動推進に関する法律』の第二条（基本理念）では、「読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものであり、社会全体でその推進を図っていくことは極めて重要である」(1)として、各都道府県に『子ども読書活動推進基本計画』の策定を求めた。これを受け、京都市においても、基本計画が策定され、読書活動を推進するための様々な取組が行われるようになってきた。

しかし、家庭や学校での取組の相違により、子どもたちの読書活動にも違いが生まれることが諸調査からもわかってきている。昨年度の研究では、子どもたちに読書活動への働きかけを行うために、教科等の学習内容と読書活動とを関連させ、学習活動の中で読書活動への指導を行ったり、すすめる取組を行ったりした。その結果、子どもたちの読書の幅が広がり、読書量も増えることが明らかとなった。(2)

一方、現行の『学習指導要領』(3)や本市『指導の重点』(4)等では、読書活動を充実させる取組を行うとともに、子どもたちに主体的、意欲的な学習活動を展開させ、生きる力を身につけさせていくためには、学校図書館の読書センターとしての機能と学習・情報センターとしての機能を利用し、読書をすすめたり、図書資料を活用したりすることが大切であるとして、学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図ることを求めている。

そこで本研究では、全国学校図書館協議会（以後全国SLAと記す）制定の『情報・メディアを活用する学び方の指導体系表』(5)に基づき、学校図書館のメディア活用能力を育てる指導事項を導き出し、それと国語科の学習内容とを関連づけることにより、小学校低・中・高学年の発達段階の系統性を考えた具体的な「指導内容一覧表」を作成する。そしてこの一覧表をもとに、教科等に関連した読書指導に加え、学校図書館の読書センター、学習・情報センターとしての機能を活用するためのメディア活用能力(6)を育てる学び方の指導（以後「学び方の指導」と記す）を関連させた学習活動を行い、そこでの子どもたちの活動の様子や成果と今後の課題について報告する。また昨年度作成した「読書活動年間計画」に、さらに、この「学び方の指導」を加えた『読書活動計画』(7)を作成し、小学校第1, 3, 5学年分を再提示する。

第1章 今、求められる

学校図書館の利用とその機能の活用

第1節 学校図書館の歴史的な背景

(1) 全国的な動きから

現在、テレビ、ビデオ、インターネット等の様々な情報メディアの発達・普及による子どもたちの生活環境の変化、さらには幼児期における読書習慣の未形成等により、子どもの「読書離れ」が指摘されている。(8)この傾向は、「朝の読書」等、読書をする時間を確保する取組が広がった結果、減少傾向にあるものの、依然として、全国SLAが行った今年度の「読書調査」(9)の結果からも不読者数（5月1ヶ月間に一冊も本を読まなかった者の数）は0%ではなく未だ課題とされている。

また、今年度11月に発表された経済協力開発機構(OECD)の国際到達度調査の結果、日本の高等学校第1学年の読解力が、前回(2000年調査)は8位だったものの、今回(2003年調査)は14位と順位が下がったことから、文部科学省はその要因として、テレビの視聴時間、コンピュータの普及等の言語環境とともに、読書量の変化が考えられると指摘している。

子どもを取り巻くこのような現状の中、現行の『学習指導要領』では、「子どもたちの主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実すること、またそのために学校図書館を利用し、その機能を活用すること」を求めている。

次ページの表1-1で示すように、図書館が学校に設置され、活用されてきた歴史は長く、1947年文部省令制定の『学校教育法施行規則』により「学校には、その学校の目的を実現するために必要な校地、校舎、校具、運動場、図書館又は図書室、保健室その他の設備を設けなければならない(第1条)」(10)とされ、6年後の1953年『学校図書館法』によって、「学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であることにかんがみ、その健全な発達を図り、もつて学校教育を充実することを目的(第1条)」(11)としてすべての学校に図書館が設置されるようになった。以来五十余年間、学校にはなくてはならない施設として現在に至っている。

しかし、学校図書館が設置されて以来半世紀、いつの時代にも学校図書館を利用し、その機能を活用するための様々な取組や子どもたちの読書活動をすすめる取組（以後これらの取組を図書館教

育と記す) (12)が行われてきた。しかし、未だに十分には浸透しておらず、今、また改めて図書館教育が見直され、推進することが求められているのはなぜか。

本項では、その要因を図書館教育が行われてきた歴史的な背景から探っていくことにする。

まず右記の表 1-1 に沿って、図書館教育の全国的な動きを振り返ってみる。

1953年に学校図書館がすべての学校に設置され、図書資料や施設等が充実し始めた。しかし、図書館教育の教育課程への位置づけがなかったために、どのような内容を、どのように指導していけばよいのかわからないという現場の声を受け、1957年、当時の文部省により『初等教育指導事例集 8 学校図書館編』(13)として学校図書館を活用した指導事例集が発行された。

この資料集の中では、子どもたちに読書をすすめる指導を「読書指導」とし、また学校図書館の利用や図書資料の活用のための指導を「利用指導」という用語で位置づけ、それぞれの指導事例が紹介されている。

この事例集発行以降、図書館教育の指導として「読書指導」、「利用指導」という言葉が使用されることになった。

その翌年に告示された『学習指導要領』総則に

表 1-1 学校図書館にかかわる全国的な動き、京都市の動き

西暦	和暦	全 国	京 都 市
1947	S22	文部省令第11号制定『学校教育法施行規則』1947.5	
1950	S25	法律第118号制定『図書館法』1950.4	
1953	S28	法律第185号制定『学校図書館法』1953.8	
1957	S32	文部省『初等教育指導事例集 8 学校図書館編』	
1958	S33	文部省告示『学習指導要領』「総則」	
1959	S34	文部省制定『学校図書館基準』「1. 図書館の利用指導」	
1961	S36	文部省『小・中学校における学校図書館利用の手ひき』1961.10	
1962	S37		京都市教育委員会『京都市立小学校教育課程 指導計画』
1968	S43	文部省告示第268号『小学校学習指導要領』「第4章 特別活動 学級指導」学校図書館の利用指導	
1971	S46	全国SLA制定『学校図書館の利用指導体系表』1971.8	京都市教育委員会『京都市立小学校教育課程 指導計画』 「学級指導」集団読書指導、学校図書館の利用指導
1974	S49		京都市教育委員会『京都市立小学校教育課程 指導計画』 「学級指導」集団読書指導、学校図書館の利用指導
1977	S52	文部省告示第155号『小学校学習指導要領』「第4章 第2内容 C学級指導」(3) 学校図書館の利用指導	京都市教育委員会『京都市立小学校教育課程 指導計画』 「学級指導」集団読書指導、学校図書館の利用指導
1980	S55		京都市教育委員会『京都市立小学校教育課程 指導計画』 「学級指導」学校図書館の利用指導
1983	S58		京都市教育委員会『京都市立小学校教育課程 指導計画』 「学級指導」学校図書館の利用指導
1986	S61		京都市教育委員会『京都市立小学校教育課程 指導計画』 「学級指導」学校図書館の利用指導
1989	S64 H元	文部省告示第24号『小学校学習指導要領』「第4章 特別活動 第2内容 A学級活動」(2) 学校図書館の利用や情報の適切な活用	京都市教育委員会『京都市立小学校教育課程 指導計画』 「学級指導」学校図書館の利用指導
1990	H2		京都市教育委員会『京都市立小学校教育課程 指導計画』 「特別活動 A学級活動」⑤学校図書館の利用や情報の適切な活用
1992	H4	全国SLA制定『資料・情報を活用する学び方の指導体系表』	京都市教育委員会『京都市立小学校教育課程 指導計画』 「特別活動 A学級活動」⑤学校図書館の利用や情報の適切な活用
1996	H8		京都市教育委員会『京都市立小学校教育課程 指導計画』 「特別活動 A学級活動」⑤学校図書館の利用や情報の適切な活用
1997	H9	法律第76号制定『学校図書館法の一部を改正する法律』「(第5条)司書教諭の設置の特例」1997.6	
1998	H10	文部省告示第175号『小学校学習指導要領』「第4章 特別活動 第2内容 A学級活動」(2) 学校図書館の利用	
1999	H11	参議院本会議にて決議『子ども読書年に関する決議』1999.8	
2000	H12	『子ども読書年』5月5日「子ども読書の日」	
2001	H13	法律第154号制定『子ども読書活動の推進に関する法律』2001.12	
2002	H14	閣議において決定『子ども読書活動の推進に関する基本的な計画』2002.8	京都市教育委員会『京都市立小学校教育課程 指導計画』 「特別活動 A学級活動」④学校図書館の利用 京都市子ども読書活動振興市民会議 発足
2003	H15	12学級以上の学校には、司書教諭を配置(法律第76号制定)	京都市子ども読書活動振興市民会議 『子どもの読書活動振興のためのアピール』
2004	H16	全国SLA制定『情報・メディアを活用する学び方の指導体系表』	

は、「学校図書館の資料や視聴覚教材等を精選して活用すること」、また国語科の中では、「学校図書館の利用の仕方を指導することが望ましい」(14)とする記述が見られ、この時点で初めて、小学校の教育課程に図書館教育が位置づけられた。

しかしこの『学習指導要領』では、具体的な指

導内容や方法が示されておらず、「指導することが望ましい」とされるに留まったため、各学校や学級において、十分な指導が行われなかったのではないかと考えられる。

次いで、1959年文部省より『学校図書館基準』が制定され、学校図書館の機能や司書教諭を含む学校図書館職員の配置基準、必要な図書資料の整備等が具体的に示されることとなった。

この基準には、「学校図書館は指導機関」であり、「問題解決のために図書館を有効に利用する方法を会得させ、読書指導によって読書の習慣づけ・生活化を教える」ことが示されており、「図書および図書館の利用を高めるために」、下記資料 1-1にある、利用指導の具体的な指導事項も示された。また「これらの指導は、小・中・高等学校ごとに、教科および教科以外の諸指導を通して、計画的、組織的に行うことが必要である」(15)と明記されている。

資料 1-1 利用指導の具体的な指導事項

- | | |
|---|------------------|
| ① | 学校図書館の概要 |
| ② | 図書・図書館の歴史と現状 |
| ③ | 図書館道徳と読書衛生 |
| ④ | 図書館の構成と取扱方 |
| ⑤ | 図書の選択 |
| ⑥ | 分類と配列 |
| ⑦ | 図書の目録 |
| ⑧ | 辞書・事典・索引類の利用 |
| ⑨ | 年鑑・統計類の利用 |
| ⑩ | 雑誌・新聞類の利用 |
| ⑪ | インフォメーションファイルの利用 |
| ⑫ | 視聴覚資料の取扱と利用 |
| ⑬ | 読書法 |
| ⑭ | 参考書目の作り方とノートのとり方 |
| ⑮ | 校外の読書施設・文化施設 |

『学校図書館基準』 I. 学校図書館の利用指導
(沿革)昭和 34 年 文部省制定 1959

このように指導事項が示されたことは、一定の目安となり、この制定以後、読書指導や利用指導がすすめられるようになった。しかし、小・中・高等学校ともに示された指導事項が、共通したこの 15 事項のみで、各学年の発達段階に即した細かなものではなかったために、各学校・学級での取組に反映されにくかったのではないかと考えられる。

そこで、1968年に改訂された『小学校学習指導要領』では、従来、学校や学級を中心に行われてきた学校図書館における指導や諸活動をより重視するとして、特別活動の中に「学級指導」という項目が設けられ、その指導内容の一つとして「学校図書館の利用指導を適宜行うものとする」(16)と例示された。その後、1977年の『小学校学習指導要領』改訂時にも、「学級指導」の指導内容の一

つとして「学校図書館の利用指導」(17)が、教育課程の中に例示として位置づけられることとなり、以後二十余年間に渡り、「学級指導」として「学校図書館の利用指導」が各学校、学級において行われてきた。しかし、ここでも具体的な利用指導の内容が『学習指導要領』には示されておらず、例示として「学校図書館の利用指導」が挙げられているにすぎなかったため、その指導の手がかりになるものは『学校図書館基準』の利用指導の指導事項と、それに基づき文部省から、1961年に出された『小・中学校における学校図書館利用の手びき』(18)、および1970年に出された『小学校における学校図書館の利用指導』(19)等であったために、図書館教育への取組が十分には浸透せず、学校間・指導者間でその取組に違いが生まれたのではないかと考えられる。また、笠原良郎が「『利用指導』という語が『図書館利用上のマナーの指導』に矮小化されて受け取られる傾向にある」(20)と述べているように、その指導が学校図書館の利用方法の指導に終わっていることも考えられ、図書館を活用し、図書資料を活かす指導が行われてきたか疑問視される場所である。さらに、1989年の『小学校学習指導要領』改訂時には、特別活動の内容の再編成に伴い、「学級会活動」の内容と「学級指導」の内容とが結合され「学級活動」となった。このため、「学級指導」として行われてきた「学校図書館の利用指導」も「学校図書館の利用や情報の適切な活用」(21)と改められ、“指導者による指導”から“子どもたち自身による活動”へとその在り方も変化した。そこで、この改訂以降、図書館を活用し図書資料を活かす指導が、より行われにくくなったのではないかと推測する。

以上、このような学校図書館に関する取組の歴史的な動きを見ていくと、すべての学校に図書館が置かれて以来、五十余年もの長きに渡り、様々な指導例や指導事項が示され、行われてきたにもかかわらず、図書館教育が十分には定着せず、今、改めて学校図書館の計画的な利用や活用が求められている背景には、教育課程の中での図書館教育の位置づけが例示に留まってきた点、また他の教科等のように、具体的な指導の場や指導内容が教育課程の中で示されず、「教科および教科以外の諸指導を通して、計画的、組織的に行うことが必要である」として、各学校での取組に任されてきた点が考えられる。

つまり改めて、それぞれの学校や学級での教育活動の中に、図書館教育が位置づけられることが、今、求められているのである。

(2) 京都市の動きから

次に、2 ページの表 1-1 に沿って、全国の動きと関連した京都市の取組の歴史的な動きについて振り返ってみることにする。

1968 年に告示された『小学校学習指導要領』の「第 4 章 特別活動」に「学級指導」という項目が初めて置かれ、その指導内容の例示として「学校図書館の利用指導」が位置づけられた。

これを受け京都市においても、その 3 年後の 1971 年に『京都市立小学校教育課程指導計画』が作成され、「学習や読書活動等のために、学校図書館を利用するのに必要とされる基礎的な知識・技能・態度を養うことを目的とし、読書指導の基礎ともなるべきものである」(22)として、他の指導例とともに、「集団読書指導」と「学校図書館の利用指導」が学級指導として位置づけられた。

そして、下記の表 1-2 で示す、各学年の年間月別配当例が示された。以後、1974 年に改訂された『京都市立小学校教育課程指導計画』でも、引き続き同じ内容の年間月別配当例が示された。

さらに、1977 年の改訂では、1971 年に全国 SLA が制定した『学校図書館の利用指導体系表』(23)に基づいた年間月別配当例が示されることとなった。もちろん、学級指導として例示されている指導内容が、図書館教育以外にもあったため、『学校図書館の利用指導体系表』で示された指導事項のすべてが、学級指導の内容として行われたわけではなく、その一部の指導に留まったと思われるが、

以後これら月別配当例をもとに、京都市立の各小学校において学級指導の一環として、図書館教育が行われてきたと考えられる。

その後の 1980 年の『京都市立小学校教育課程指導計画』の改訂では、集団読書指導が削除され、学級指導として例示される指導事項は、学校図書館の利用指導のみとなった。そのため学級指導としては、読書指導が行われなくなったこともあったが、1983 年から 1989 年までに改定された、『京都市立小学校教育課程指導計画』では、「図書や図書以外の資料の有効な利用の仕方を修得させ、各教科学習や読書活動等を主体的に学習する能力（自ら学び続ける努力）を身につけさせ、個性や能力に応じた資料の収集や活用ができることを目的」(24)として、年間主題配当例に、毎月、学校図書館の利用指導が例示されることとなった。

このことに伴い、示される利用指導の指導事項が、以前に比べ多くなった。ただし、それらの指導事項は、下記の表 1-2 で示すように、指導時間が 1/2 時間になったり、「教科等における指導でもよい」()内に示した指導事項)とされたりした。また、指導時間の取り方については、明確な位置づけが示されず、「各学校や子どもたちの実態に応じて適宜・効果的に指導すること」とされた。そのため、学校や学級により、その取組に違いが生まれたといえる。

表 1-2 図書館教育にかかわる学級指導（活動）の年間月別配当例

年月	1 年					
	1971, 1974	1977	1980	1983, 1986, 1989	1990, 1992	1996~
4 月	図書館めぐり	図書館めぐり	図書館めぐり	(図書館めぐり)	図書館に入ろう	
5 月	本の出し入れ *おはなしかい (紙芝居)	低学年の本 *おはなしかい (紙芝居)	本のならべ方	(学級文庫の本を読もう)		図書館に入ろう (国語)
6 月	図書館の約束	本を大事に	本を大事に	本を大事に 1/2		
7 月				(本のかり方返し方)	本のかり方返し方 1/2	本のかり方返し方 (国語)
9 月				(読書の記録)		
10 月	本の読み方 *おはなしかい (お話)	*おはなしかい (お話)		(本を読むとき)		読書週間 (国語)
11 月				(本のならべ方)		
12 月				紙芝居の見方 1/2		
1 月				図書館へ入る時 1/2		
2 月				図書館での約束 1/2		
3 月				図書館にあるもの 1/2		

京都市教育委員会作成『京都市立小学校教育課程指導計画』をもとに作成

その後、1989年の『小学校学習指導要領』改訂で、学級指導から学級活動へとその位置づけが変わったことに伴い、1990年以降、京都市における「学校図書館の利用指導」も、「学校図書館の利用や情報の適切な活用」へと変化した。

そこで、1990年に改訂された『京都市立小学校教育課程指導計画』では、「日常の学習に活用する方法や態度の育成に努めることが大切」として、学級活動年間「活動」配当例に、「学校図書館の利用と情報活用」が位置づけられ、また、その指導内容は、「学校図書館の利用の仕方や各種の情報を適切に選択し活用する仕方を身につけさせる」と示された。しかし、その指導事項は、それ以前の「学校図書館の利用指導」に比べると、大幅に削減されることとなった。

さらに、1996年の『京都市立小学校教育課程指導計画』の改訂では、「学校図書館の利用や情報の適切な処理」に関する指導事項を「学級活動の時間以外で指導できる内容」として国語科に位置づけられることが求められ、各学級において具体的な計画を立てて実施することとされた。

つまり、1989年の『小学校学習指導要領』改訂以降、直接的に図書館教育を扱う学級指導の時間がなくなり、『京都市立小学校教育課程指導計画』によると、「学校図書館の利用や情報の適切な処理」と示された内容が、国語科の目標や内容の中で位置づけられることになった。

このように京都市においては、『学習指導要領』に比べて、図書館教育がより詳しく位置づけられてきたものの、「学校図書館の利用指導」として『学校図書館基準』に示された内容が、十分に理解されないまま指導されているか、もしくは国語科として扱うがゆえに、学校図書館を活用した指導や図書館教育にかかわる指導が十分には行われてこなかったという状況が生まれたのではないかと考えられる。

この状況は、右上記の図1-1で示す全国SLAが行った「学校図書館の利用指導実態調査」の結果からもうかがえる。

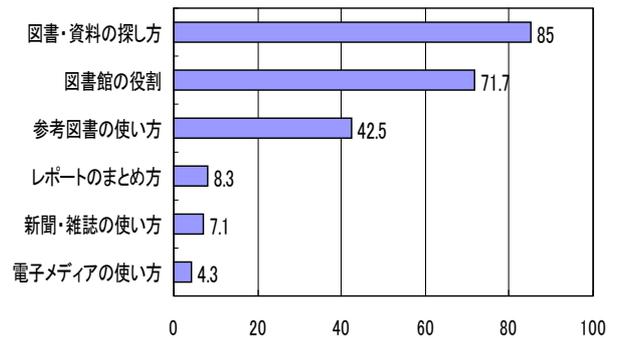
この調査結果を見ると、「図書・資料の探し方」や「図書館の役割」の指導が多く行われていることがわかる。その理由として、総合的な学習の時間の導入等で調べ学習をする機会が増えたことに伴い、学校図書館を活用する時間も増えたことが挙げられる。また「朝の読書」への取組が広がってきたことから、学校図書館を利用して、図書を借りる機会が増えたことも考えられる。

しかし、「参考図書の使い方」や「レポートのま

とめ方」、「新聞・雑誌の使い方」等、実際に図書資料をどのように利用し活用していけばよいのかという、本来学校図書館の利用指導として指導されなければならない内容については、十分な指導がされていないのではないだろうか。

この全国的な調査結果から考えると、現在、学校図書館を活用した指導や図書館教育にかかわる指導が、京都市においても十分に行われているとは言えない状況が生じているのではないかと危惧される。

図1-1 学校図書館の利用指導の実態調査



2004年度 学校図書館調査報告(全国SLA) 『学校図書館2004.11月号』のデータをもとに作成

また、近年コンピュータ等の導入により、「電子メディアの使い方や活用」についても学校図書館の利用指導に含まれるようになってきた。

しかし、上記の図1-1からもわかるように、利用指導の一つとして指導されていることは少ない。その理由として、この指導事項が情報教育の指導事項とも重なるためではないかと考えられる。

表1-3 情報活用能力を育てる指導一覧表

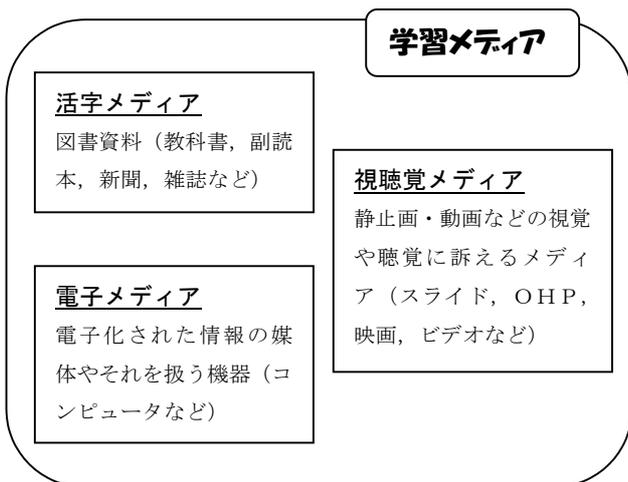
学年	単 元 名
3年	・デジタルカメラで学校たんけんしよう ・インターネットでしらべてみよう ・調べたことを発表しよう
4年	・インターネットで情報を集めよう ・調べたことをまとめよう ・まとめたことを人に伝えよう
5年	・電子紙芝居で表現しよう ・集めた情報を整理してまとめよう ・プレゼンテーションをしよう
6年	・電子メールで交流しよう ・表やグラフをもとに比べてみよう ・世界に発信しよう

京都市総合教育センター・カリキュラム開発支援センター 『「情報リテラシー」を育む学習計画』2004.4をもとに作成

京都市においても情報教育の研究がすすめられており、2004年4月には、京都市総合教育センターから『「情報リテラシー」を育む学習計画』(25)が作成、配布された。前ページの表1-3で示す「情報活用能力を育てる指導一覧表」はその内容の一部である。京都市立小学校でもこれらをもとに、電子メディアの使い方の指導を推進している学校がある。しかし、この表1-3からもわかるように、情報教育の中で扱われているメディアは、学習メディアの中の電子メディア（コンピュータや情報機器の利用や活用）に限定される。

これに対し、学校図書館で扱うメディアは、学習メディアとして、下記の図1-2で示す、活字メディア、視聴覚メディア、電子メディアを含むすべてのメディアを指す。学習・情報センターとしての機能をもつ学校図書館では、これらすべての学習メディアを扱うことが求められているのである。

図1-2 学習メディア一覧



全国 SLA 『学習指導と学校図書館』2000.7 pp.3~4 をもとに作成

現在、『小学校学習指導要領』では、「学校図書館を計画的に活用し、その学習・情報センターとしての機能の活用を図る」ことを求めている。

この機能の活用を図るためには、電子メディアのみならず、活字メディアや視聴覚メディアを含む、すべての学習メディアを利用し活用することができる、メディア活用能力を育てるための指導を行っていく必要がある。

そのためには、情報教育との関連を考えながらも、図書館教育としての学習メディアの利用や活用についての指導内容を明確にし、教育課程の中に位置づけを行い指導していくことが必要であると考える。

第2節 学校図書館の機能を学習に活かす

(1) 『メディア活用能力を育てる

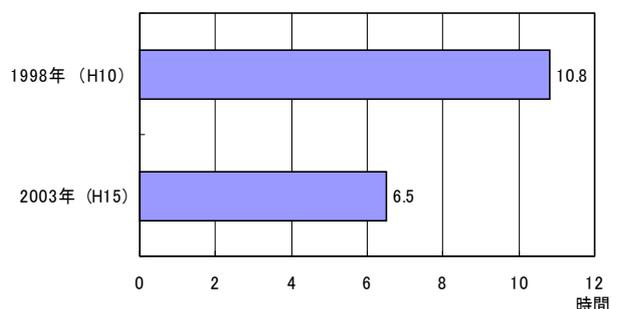
学び方の指導体系表』の作成

学校図書館を利用し、その機能を活用していくためには、図書館教育である読書指導や利用指導を行っていく必要がある。しかし、前節で述べてきたように、すべての学校に学校図書館が設置されて以降、『学習指導要領』が改訂されるたびに、学校図書館の学校教育における位置づけが明確にされ、重視されるようになってはきているものの、そこで示されているものは例示に留まり、はっきりとした指導時間や指導内容が位置づけてこられてこなかった経過から、今現在もその指導が十分に行われていないことが危惧されるのである。

とりわけ、1998年に改訂された『小学校学習指導要領』の総則では、総合的な学習の時間が本格実施され、そのねらいとして「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」(26)が求めている。そのため、「情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方等の学び方やものの考え方」をその指導内容とする図書館教育は、より一層の取組が求められている。

しかし、下記の図1-3からもわかるように、1998年(H10)の利用指導にあてられた時間は10.8時間あるのに対して、現行の『学習指導要領』が実施されるようになってからの、2003年(H15)にあてられた時間は、6.5時間と半分近くに減っている。

図1-3 学校図書館の利用指導にあてられた時間



2004年度学校図書館調査報告（全国 SLA）

『学校図書館 2004.11月号』のデータをもとに作成

この結果から、指導時間や指導内容の教育課程への十分な位置づけが明確でないために、学校図書館の利用指導としての時間が取れず、指導がされにくい状況にあることが考えられる。

そこで、読書指導や利用指導等の図書館教育をすすめていくためには、指導時間や指導内容を教育課程へ位置づけて行う必要があると考える。

位置づけるにあたっては、まず図書館教育の指導事項を明らかにする必要がある。そこで、現行『学習指導要領』に沿って内容が改訂された、全国 SLA 制定の『情報・メディアを活用する学び方の指導体系表』（以後、「体系表」と記す）(27) をもとにその指導事項を考えていくことにした。

この体系表は、現行の『学習指導要領』改訂に伴い、「総合的な学習の時間や各教科等での調べる学習において、様々な情報やメディア、特に学校図書館に備えられている図書・資料、ビデオや CD 等の視聴覚資料、CD-ROM や DVD 等のデジタル資料、インターネット等の情報やメディアを活用し、学習に生かす“学び方”の指導が重要になってくる」(28)として、2004年4月、全国 SLA が以前のものを改訂し新たに制定したものである。

この体系表については、下記の表 1-4 で示す四つの指導領域に分けて表されている。そしてこの指導領域に合わせ、小学校低学年・中学年・高

学年の発達段階に合わせた指導事項と、さらに詳しい指導内容が表されている。

しかし、この体系表にある指導事項や指導内容では、各学年で具体的にどのような内容の指導を行えばよいのかわかりにくい点、またこの体系表の四つの指導領域が「I. 学習と情報・メディア、II. 学習に役立つメディアの使い方、III. 情報の活用の仕方、IV. 学習結果のまとめ方」と情報やメディアを中心に分けられている点、この2点から考えて、そのまま教科等の学習と関連させて指導することは難しいと考える。そこで、次ページの資料 1-2 で示す、総合的な学習の時間のねらいの一つでもあり、他の教科等での調べ学習時にも必要となる学び方をもとに、新たに四つの指導領域(次ページの資料 1-3)を設定し、それに合わせて体系表を組替えることにした。この組替えを行うことで、様々な教科等と関連させて図書館教育を行うことができるものと考え、新たに作成する体系表を、『メディア活用能力を育てる学び方の指導体系表』（以後『学び方の指導体系表』と記す）と呼ぶことにする。

表 1-4 『情報・メディアを活用する学び方の指導体系表』（一部抜粋）

小学校	I. 学習と情報・メディア	II. 学習に役立つメディアの使い方	III. 情報の活用の仕方	IV. 学習結果のまとめ方
低学年	<p>○学習のめあてをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習テーマの選択 <p>○情報・メディアの利用方法を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館のきまり ・学級文庫のきまり ・図書の取り扱い方 ・コンピュータの使い方 	<p>○学校図書館を利用する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラベルと配置 ・レファレンスサービス <p>○課題に応じてメディアを利用する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図鑑等の図書資料 ・掲示、展示資料 	<p>○情報を集める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種メディアの活用 ・人的情報源の活用 <p>○記録の取り方を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抜き書きの仕方 ・絵を使った記録の仕方 ・気づいたことの書き方 	<p>○学習したことをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の整理 ・感想の書き方 ・絵や文章のまとめ方 <p>○学習したことを発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示、掲示による発表 ・紙芝居やペープサートによる発表 ・OHP、OHCを使った発表 <p>○学習の過程と結果を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べ方 ・まとめ方 ・相互評価
中学年	<p>○学習計画の立て方を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習テーマの選択 ・調べ方の選択 <p>○情報・メディアの種類や特性を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書 	<p>○学校図書館を利用する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類の仕組みと配置 ・請求番号と配架 ・コンピュータ目録 ・レファレンスサービス <p>○その他の施設を利用する</p>	<p>○情報の集め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種メディアの活用 ・人的情報源の活用 <p>○記録の取り方を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抜き書きの仕方 ・切り抜き、ファイルの作り方 	<p>○学習したことをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の取捨選択、整理 ・自分の意見のまとめ方 ・絵や文章のまとめ方 ・図や表の取り入れ方 ・写真や音声の取り入れ方

資料1-2
学び方

- ◇情報の集め方
- ◇調べ方
- ◇まとめ方
- ◇報告や発表・討論の仕方

文部省『小学校学習指導要領解説
総則編』東京書籍 1999.5 p.46



資料1-3 新たに作成した指導領域

- I. 情報の収集（探し方，集め方）
- II. 情報の活用（調べ方，使い方）
- III. 情報の選択（まとめ方）
- IV. 情報の伝達（伝え方）

『学び方の指導体系表』を作成するにあたり，新たに作成した四つの指導領域に合わせて，指導事項および指導内容の組替えを行った。

資料1-4
削除した
指導事項

- レファレンスサービス
- 学習テーマの選択，決定
- ノートのまとめ方
- カード目録

活用しやすいものにするために，できるだけ項目を絞りたい考え，前ページの表1-4で，○印のついている部分に焦点をあて，これを「指導事項」とした。次にこの指導事項の見直しを行った。その上で，左下記の資料1-4で示す四つの指導事項を削除することにした。その理由として，まず「■レファレンスサービス」については，現在京都市では，司書教諭が専任でないため，校内で十分なレファレンスサービスが行える状況に無いと判断したためである。

次に「■学習テーマの選択，決定」，「■ノートのまとめ方」については，各教科等の学習活動での指導内容と重なり，それぞれの教科等の指導内容によりその指導方法が異なるためである。

最後に，「■カード目録」については，現在京都市において，この目録を備えている学校図書館が少なくなり，それを活用する機会が減少していると考えられるためである。これら四つの指導事項を除いた他の指導事項については，すべて新しく作成する体系表に組み込んだ。

このようにして，下記の表1-5で示す『学び方の指導体系表』の作成を行った。

表1-5 『メディア活用能力を育てる学び方の指導体系表』

I. 情報の収集 (探し方，集め方)			II. 情報の活用 (調べ方，使い方)
低学年	中学年	高学年	低学年
○学校図書館，学級文庫のきまりや使い方 ・図書の取扱い方 ・ラベルと配置	○学校図書館，学級文庫のきまりや使い方 ・図書の取扱い方 ・ラベルと配置 ・分類の仕組みと配置 ・請求番号と配架	○学校図書館，学級文庫のきまりや使い方 ・図書の取扱い方 ・ラベルと配置 ・分類の仕組みと配置	○目的に応じた情報の活用 ・活字メディア (図鑑等) ・人的情報源 ・掲示，展示資料
	○公共図書館や各種施設のきまりや使い方，サービス	○公共図書館や各種施設・文化施設のきまりや使い方，サービス	○目的に応じた記録のとり方 ・抜き書きの仕方 ・絵を使った記録の仕方
○目的に応じた情報の選択 ・活字メディア (図鑑等) ・人的情報源 ・掲示，展示資料	○目的に応じた情報の選択 ・活字メディア (図書，新聞，雑誌，国語辞典，地図等) ・視聴覚メディア ・電子メディア (コンピュータ目録等) ・掲示，展示資料 ・ファイル資料 ・人的情報源	○目的に応じた情報の選択 ・活字メディア (図書，新聞，雑誌，漢字辞典，事典，年鑑等) ・視聴覚メディア ・電子メディア (コンピュータ目録等) ・掲示，展示資料 ・ファイル資料 ・人的情報源	

(2) 国語科と関連させた図書館教育

前ページで示した表1-5の『学び方の指導体系表』では、指導事項のみを挙げた。これを教育課程の中に位置づけ、各学年で指導していくためには、具体的な指導内容を教科等の指導内容と関連させ求めていく必要がある。

現在、『京都市立小学校教育課程指導計画』では、「学校図書館の利用」は、学級活動の時間以外でも指導できる内容であるとして、国語科に位置づけられている。また、小森茂が『学び方の指導体系表』の指導領域である『情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方』は、国語科の重要な学習内容や方法などでもある⁽²⁹⁾と述べている。これらのことを鑑み、国語科の指導内容から、『学び方の指導体系表』の指導事項に沿った、具体的な指導内容を導き出すことにした。

このことにより、『学び方の指導体系表』に示す指導事項を国語科と関連させて行うことができる考えた。また国語科でこの指導事項に沿った指導を行うことにより、そこで学んだことを総合的な学習の時間をはじめ、他の教科等での『情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方』の指導に生かしていきけるのではないかと考えた。

『学び方の指導体系表』に沿った具体的な指導内容を導き出すにあたって、まず学校図書館が読書センター、学習・情報センターとしての機能をもつことから、そのいずれの機能も活用できるようにするための指導内容にしなければならないと考えた。そこで、国語科の「B 書くこと」と「C 読むこと」の目標をもとに、下記の表1-6で示す、学校図書館のメディア活用能力を育てる学び方の指導目標を挙げることにした。

表1-6 学校図書館のメディア活用能力を育てる学び方の指導目標

	読書センターとして活用する能力を育てる目標	学習・情報センターとして活用する能力を育てる目標
低学年	楽しんで読書する	楽しんで表現する
中学年	幅広く読書する	適切に表現する
高学年	読書を通して考えを広げたり深めたりする	効果的に表現する

次に、日常の指導に生かしていくために、国語科教科書の教材をもとに具体的な指導内容を導き出すことにした。

折しも、来年度(平成17年度)からは、新しい教科書が採択されるため、改訂された国語科教科

書に基づいて、具体的な「学び方の指導」の指導内容をとらえることにした。

現在小学校用の国語科教科書は、光村図書、東京書籍、大阪書籍、教育出版、学校図書、以上5社のものが検定を通過している。このうち、京都市では平成16年度に引き続き、平成17年度以降も光村図書の教科書を採択した。しかし、どの出版社の教科書を使っても指導できる「学び方の指導」の指導内容を作成したいと考え、上記5社すべての教科書の教材に基づき、指導内容を導き出して、小学校低、中、高学年の『メディア活用能力を育てる学び方の指導』内容一覧表(以後「学び方の指導内容一覧表」と記す)を完成させた。

ここでは、小学校低学年の「学び方の指導内容一覧表」の作成を例に、その手順について述べていくことにする。

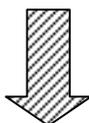
表1-7 『学び方の指導体系表』の指導事項に沿って、各社の国語科教科書より指導内容を挙げたもの(一部抜粋)

機能	読書センター	学習・情報センター
指導目標	楽しんで読書する	楽しんで表現する
「学び方の指導」指導事項(主題)	◎易しい読み物に興味をもつ	◎学校図書館のきまり・図書の扱い方
光村図書	・すきな本 ・読んでおもしろかった本 ・外国のお話を日本語の文章に直した人を訳者とよぶ	
東京書籍	・春の話を読む	
大阪書籍	・日本の昔話 ・外国の昔話 ・物の作り方の本 ・動物の出てくる本	
教育出版	・日本の昔話 ・外国の昔話	
学校図書		

表1-8 「易しい読み物に興味をもつ」の指導内容をまとめたもの

I	主題名	ねらい	学習内容
読書センター	◎易しい読み物に興味をもつ	・易しい読み物に興味をもち、本を選ぶことができる	・図書館には、いろいろな本があることを知る ・4分類、9分類(絵本)の本を知る ・易しい読み物に興味をもち、読みたい、または読んでほしい本を選ぶ (日本の昔話、世界の昔話、動物の出てくる話、春の話、物作りに関する本)

表 1-9
「学校図書館のきまり」の指導内容を
まとめたもの



I	主題名	ねらい	学習内容
学習・ 情報センター	◎学校図書館の利用	・図書の扱い方を知る	・図書の取り出し方を知る ・ページのめくり方を知る ・本の戻し方を知る
	・学校図書館のきまり	・本を読む時の場所、姿勢、明るさ等を考える	・読む場所やその場の明るさを考える ・読む姿勢を考える
		・本の借り方、返し方のきまりを知る	・貸し出しカードの書き方や扱い方を知る

『学び方の指導体系表』で示した指導事項に沿った、具体的な指導内容を、各出版社の国語科教科書より挙げ、前ページの表 1-7 で示した一覧表を作成した。ただしこの時点で、国語科の指導内容と重ならない「学び方の指導」の指導事項については、省くことにした。

このようにして作成した、前ページの表 1-8、上記の表 1-9 で示す一覧表をもとに、学校図書館の読書センターや学習・情報センターとしての機能を活用する、メディア活用能力を育てる学び方の指導の、「主題名」、「ねらい」、「学習内容」をそれぞれ明らかにしていった。

学校図書館の読書センターとしての機能を活用する能力を育てる、「学び方の指導」の具体的な指導内容作成にあたっては、その「主題名」および「ねらい」を、国語科の「C 読むこと」の指導内容から挙げた。また「学習内容」については、各出版社の国語科教科書の指導内容から導き出したものをまとめ、それを記述した。

次に、学習・情報センターとしての機能を活用する能力を育てる、「学び方の指導」の具体的な指導内容作成にあたっては、その「主題名」を『学び方の指導体系表』の指導事項から挙げた。ただし、この指導事項については、内容に国語科の「A 話すこと・聞くこと」や「B 書くこと」の指導内容も含まれるため、これらの内容も加味して「主題名」を設定した。「ねらい」および「学習内容」については、各出版社の国語科教科書での指導内容をまとめたものを記述した。しかし、教科書記載の指導内容と対応しにくい内容については、京都市小学校図書館研究会が作成している『利用指導ノート』や『図書館ウォッチング』、滋賀県小学校教育研究会学校図書館部会利用指導部作成の『だいすき！学校図書館』等の利用指導に関する先行研究を参考にしてまとめ記述した。

このような手順で、下記の表 1-10 で示す小学校低・中・高学年分の学校図書館の『メディア活用能力を育てる学び方の指導』内容一覧表を作成し、付表として本稿末に提示している。

表 1-10 低学年の『メディア活用能力を育てる学び方の指導』内容一覧表

低学年		〈目標〉		①楽しんで読書をする	②楽しんで表現する
「学び方の指導」	No.	主題名	ねらい	学習内容	
I 情報の 収集	読書センター	◎易しい読み物に興味をもつ	・易しい読み物に興味をもち、本を選ぶことができる	・図書館には、いろいろな本があることを知る ・4分類、9分類（絵本）の本を知る ・易しい読み物に興味をもち、読んでみたい、または読んでほしい本を選ぶ（日本の昔話、世界の昔話、動物の出でくる話、春の話、物作りに関する本）	
	学習・情報センター	◎学校図書館の利用 ・学校図書館のきまり	・図書の扱い方を知る	・図書の取り出し方を知る ・ページのめくり方を知る ・本の戻し方を知る	
		◎学級文庫の利用 ・学級文庫のきまり	・本を読む時の場所、姿勢、明るさ等を考える ・本の借り方、返し方のきまりを知る	・読む場所やその場の明るさを考える ・読む姿勢を考える ・貸出カードの書き方や扱い方を知る	
			・学級文庫のきまりを考える	・本を読んだり借りたりする時のきまりを考える	

- (1) 文部法令研究会/監『文部法令要覧平成 15 年版』「子どもの読書活動の推進に関する法律(第二条, 第九条)」ぎょうせい 2003.1 pp..3269~3270
- (2) 拙稿『平成 15 年度研究紀要 Vol. 2』京都市総合教育センター 2004.3 pp..41~47
- (3) 文部省『小学校学習指導要領解説 総則編』東京書籍 1999.5 pp..89~90
文部省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社 1999.5 pp..135~136
文部省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』東洋館出版社 1999.5 pp..23~27
- (4) 京都市教育委員会『指導の重点』2004.4 p.3
- (5) 全国 SLA 『学校図書館 5 月号 2004 No.643』2004.5 pp..14~17
- (6) 「新学校図書館学」編集委員会編『学習指導と学校図書館』全国 SLA 2000.7 p.7
- メディア活用能力の育成は、学校図書館の利用指導と呼ばれていたものである。必要に応じて適切なメディアを選択でき、適切に効果的に利用できるような能力を育成すること。情報活用能力の一部である。
- p.17
- メディア活用能力とは、メディアを読み、書き、作ることを通して、児童・生徒が調べ、まとめ、発表するなどの学習活動を可能にするための基礎的な学習技能である。
- (7) 前掲 注(2)「付表1 読書活動年間計画」pp..66~77
- (8) 国立教育政策研究所 教育課程研究センター『読書活動・学校図書館関係資料』『子どもの読書活動の推進にする基本的な計画(8月2日閣議決定)』について 2003.10 p.17
- (9) 全国 SLA 『学校図書館 11 月号 2004 No.649』2004.11 pp..13~14
- (10) 全国 SLA 『学校図書館の法規・基準—第2版—』「学校教育法施行規則(抄)」(沿革)昭和22年5月23日文部省令第11号制定 平成12年10月31日文部省令第53号最終改正 p.25
- (11) 前掲 注(10)「学校図書館法」昭和28年8月8日法律第185号制定 平成13年3月31日法律第9号最終改正 p.52~54
- (12) 図書館用語辞典編集委員会編『最新図書館用語大辞典』柏書房 2004.4 p.391
- (13) 文部省『初等教育指導事例集8 学校図書館編』明治図書出版株式会社 1958.5
- (14) 大蔵省印刷局編『小学校学習指導要領』大蔵省印刷局 1958.10 p.5, pp..7~27
- (15) 前掲 注(10)「学校図書館基準」(沿革)昭和34年 文部省制定 pp..72~77
- (16) 文部省『小学校学習指導要領』大蔵省印刷局 1968.7 pp..208~209
- (17) 文部省『小学校学習指導要領』大蔵省印刷局 1977.7 p.108
- (18) 文部省『小・中学校における学校図書館利用の手びき』東洋館出版社, 1961.10
- (19) 文部省『小学校における学校図書館の利用指導』大日本図書株式会社 1970.12
- (20) 全国 SLA 『学校図書館 7 月号 1992 No.501』1992.6 pp..9~11
- (21) 文部省『小学校学習指導要領』大蔵省印刷局 1989.3 p.111
- (22) 京都市教育委員会『京都市立小学校教育課程指導計画第1学年』1971 p17
- (23) 全国 SLA 利用指導委員会編『学校図書館の利用指導の計画と方法』全国 SLA 1971.8 付表「学校図書館の利用指導体系表」
- (24) 京都市教育委員会『京都市立小学校教育課程 第1学年1983』京都市教育委員会 pp..1-特-14~1-特-15
- (25) 京都市総合教育センター, カリキュラム開発支援センター『教科学習と結びつけて年間15時間で進める「情報リテラシー」を育む学習計画(小学校第3学年~第6学年)』2004.4 pp..2~3
- (26) 前掲 注(3)『小学校学習指導要領解説 総則編』「総合的な学習の時間のねらい」pp..45~46
- (27) 全国 SLA 制定『情報・メディアを活用する学び方の指導体系表』2004.4
- (28) 森洋三『全国 SLA 「情報・メディアを活用する学び方の指導体系表」』第34回全国学校図書館研究大会P⑥分科会資料 p.4
- (29) 小森茂『なぜ国語科は「総合的な学習」と連携を図るのか』明治図書 1999.8 p.16

第2章 子どもたちの読書活動を

すすめていくために

第1節 計画的な指導に向けて

(1) 年間計画作成の必要性

前章第1節では、『学習指導要領』等で、図書館教育の必要性が述べられている反面、その実施に関しては「各学校や子どもの実態に応じて適宜・効果的に指導すること」とされたため、教育課程への位置づけが明確ではなく、十分な指導が行われなかったのではないかと予想されることについて述べてきた。

また前章第2節では、図書館教育を行うためには、その指導のねらいや内容を明らかにし、教科等と関連させ、教育課程に位置づけた指導をすることが必要であるということについて述べてきた。

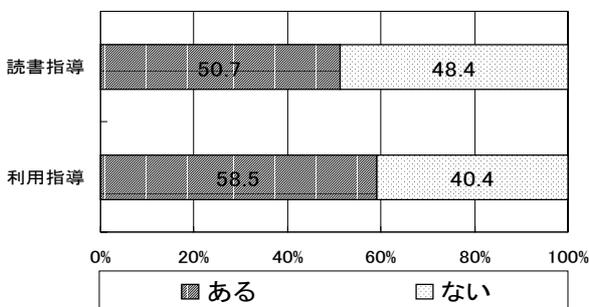
そして、教育課程への位置づけを図るためにまず、図書館教育のねらいや指導内容を低・中・高学年ごとに整理してきた。

次に教科等との関連を図り、そのねらいや内容に基づき、学校図書館にかかわる指導を教育課程に位置づけ計画的に行っていくために、各学年の読書活動に関する年間計画の作成をすることにした。なぜならば、図書館教育を教科等に関連させて計画的に行うことについては、単にそれを行うことが目的ではなく、教科等の指導内容を深めたり、広げたりすることにも大きくかわり、学習指導や子どもたちの学習活動に大変有効であると考えるからである。

また、図書館教育を計画に基づき継続的に実施していくことにより、将来に渡って、読書活動に取り組んだり、自ら必要な情報を獲得し、それを利用したり活用したりする「生きる力」をはぐくむことへもつながっていくと考えているからである。図書館教育として行う指導については、前述したように二つに大別される。まず、読書指導とは、図書の扱い方、選び方から読み方、読後の記録の仕方等、子どもたちが本を読みそこから思考を働かせ、読書感想文を書いたり、読書感想画を描いたり、テーマ読書へとつなげたりと、様々な取組へと発展するような指導のことをいう。また利用指導とは、子どもたちのもった課題を解決するために、図書の探し方や活用の仕方、そのまとめ方や発表の仕方と、様々な図書資料の活用の仕方などの指導のことをいう。

これらの指導は学ぶ内容も多く、発達段階に応じて、子どもたちのもてる力をすべて使い活動しなければならないため、一度学んだだけでは定着しにくく、継続的な指導が必要である。

図 2-1 読書指導、利用指導の年間計画の有無



第 49 回読書調査報告（全国 SLA）
『学校図書館 11 月号 2003』のデータをもとに作成

そこで、各教科等の指導内容と関連をもたせ、図書資料を使う必要性や課題を明確にした上で、

それぞれの学年に応じた指導を行っていく必要がある。そのためには、何学年のいつの時期に、どのような教科等と関連をもたせ、どのような内容の指導を行うのかということについて、各学校や子どもたちの実態、教科等の指導内容に合わせて、計画的に指導していく必要がある。

しかし、左下記の図 2-1 で示す、全国 SLA が昨年行った読書調査(30)から、図書館教育についての年間計画作成状況を見ると、読書指導の年間計画を作成している学校が全体の 50.7%、また利用指導の年間計画を作成している学校が全体の 58.5%である。

この結果から考えて、現在、図書館教育が計画的に行われていないと予想させる学校が全体の半数近くにのぼり、読書指導や利用指導の年間計画の作成が十分ではないといえる。

年間計画が作成されていないということは、各学校において、仮に図書館教育が行われていたとしても計画的に進められていないことを示しており、このような状況の中では、学年の発達段階に応じた指導を系統的に行うことはできないのではないかと危惧されるところである。

現行の学習指導要領になって以降、学習内容および、授業時間数が削減される中、特設で図書館教育を行うことは、時間的、計画的に無理な面が出てきている。これは 6 ページの図 1-3 で示したように、利用指導にあてられている時間が、1998 年と比べると 2003 年では平均して 4 時間も削減されていることからわかる。

さらに、左下記の図 2-1 からは、読書指導と利用指導との年間計画作成率に違いが見られることから考えて、読書指導と利用指導における指導内容が異なるために、図書館教育としての年間計画ではなく、それぞれに個別の年間計画が作成されているのではないかと考えられる。

読書指導、利用指導のどちらの指導においても、図書資料を活用した指導を行うことには変わりはない。今、学校図書館を利用し、その読書センター、学習・情報センターとしての機能の活用を図ることが求められていることから考えて、互いの指導の相乗効果を高めるためにも、図書館教育として、読書指導も利用指導も含めた指導を継続的に行っていくことが必要である。

そのためにも、読書指導や利用指導を単独で行うことを避け、教科等と関連させて、学習活動の中でともに指導していくために、各学年における図書館教育の年間計画の作成に取り組むことにした。

(2) 「学び方の指導内容一覧表」に基づく

読書活動計画の作成

本項では、読書活動計画の作成について述べていく。その作成に当たっては、下記の表2-1で示す教科書に基づき、考えていくことにする。これらの教科書は、平成17年度から平成20年度まで、京都市で採択予定のものである。

表2-1 平成17~20年度 京都市採択教科書

教科	種目	採択教科書発行社名
国語	国語	光村図書
社会	社会	東京書籍
算数	算数	啓林館
理科	理科	大日本図書
生活	生活	東京書籍
音楽	音楽	教育芸術社
図画工作	図画工作	日本文教出版
家庭	家庭	東京書籍
体育	保健	学習研究社

京都市教育委員会 学校指導課 2004. 7. 26

ここでは、第1学年の読書活動計画を例に挙げ、その作成の手順と方法について、四つの視点で述べることにする。

まず、第1の視点として、「学び方の指導」を行うことができる各教科等の教材とその指導時期を検討することにする。

「学び方の指導」の指導内容を示す「学び方の指導内容一覧表」は、五つの出版社から出されている国語科教科書の指導内容に沿って作成したものであるため、まず、「学び方の指導」を関連させて行える教材を国語科から挙げ、その指導時期ごとに記述した。次に、国語科以外の教科等においても同様に検討作業を行い、「学び方の指導」やそれに関連した読書活動が行える教材を挙げることにした。その一部を示したものが、下記の表2-2である。

第2の視点として、表2-2で示した教材において、どのような指導内容の「学び方の指導」が行えるのかを示すことにした。

そこでまず、学校図書館においては、読書センター、学習・情報センターとしての機能の活用が求められていることから、どちらのメディア活用能力を育てる学び方の指導の指導内容かがわかるように、下記の表2-3で示す記号を用いて表示することにした。

表2-3 学校図書館のメディア活用能力を育てる学び方の指導を示す記号

学校図書館の機能	目標	記号
読書センター	楽しんで読書をする	★
学習・情報センター	楽しんで表現する	◆

次に、下記の表2-2の左端に示した「学び方の指導内容一覧表」に示す主題の番号を、各教科等

表2-2 第1学年 読書活動計画例（一部抜粋）

第1学年 読書活動計画		国語	生活	音楽	道徳	読書環境
目標						
★楽しんで読書をする	◆楽しんで表現する	② ★おはなしよんで ⑫ ◆たんけんしたよみつけたよ				・動物が登場する絵本 ・日本、世界の昔話
I. 情報の収集 ① 易しい読み物に興味をもつ	I. 情報の収集 ⑧ 学校図書館のきまり	③④ ★はなのみち	⑫ ◆がっこうをたんけんしよう ⑫⑪ ◆みつけたことをおしえあおう ⑩ ◆たねまきをしよう		・おはよう	・あいさつに関する図書 ・種に関する図書
II. 情報の活用 ② 易しい読み物を読む(聞く)	II. 情報の活用 ⑩ 図鑑等の使い方	② ★おむすびころりん ⑫⑬ ★ほんとなかよし	⑩ ◆くさばなであそぼう	②④ ★ものがたりとおんがく (おむすびころりん)	・お田うえじぞう (京都の民話)	・日本の民話
II. 情報の活用 ③ 内容の大体を読む	II. 情報の活用 ⑪ 実物や掲示・展示資料の使い方	⑫⑬ ◆みんなにしらせたいこと ②③④ ★大きなかぶ ⑩⑬ ◆じどう車くらべ	⑩ ◆どうぶつをみにいこう ⑩ ◆いきものをさがそう	・いまとをみつけてあそぼう (ばすばすはしる)	・ソリちゃん とチュンク (韓国語) みんなの のりもの	・動物、生き物に関する図書 ・世界の民話 ・自動車に関する図書

の教材名の左側に記入した。

前ページで示す表2-2の中では、複数回同じ番号を示しているところがあるが、その理由として、繰り返し「学び方の指導」を行うことにより、指導内容の定着を図り、何度も学び、活用することによって以前に学んだ内容を応用し、活用する力をはぐくむことができると考えたからである。

また逆に、同一番号を複数回示すことにより、各学校や子どもたちの実情に合わせ、適宜指導する回数を増減させて、「学び方の指導」を行うことも可能であると考えたからである。さらに、「学び方の指導内容一覧表」の主題は、学習指導要領に合わせ、二学年ごとを一区切りとして、低・中・高学年に分けて作成しているため、各学校、学級の実情に応じ、二年間の見通しの中で取り組むことも可能である。

第3の視点として、それぞれの教材のつながりを、下記の表2-4で示す二種類の点線で示した。

一種類は、主として読書センターとしてのメディア活用の能力を育てる教材のつながりを示したものである。もう一種類は、主として学習・情報センターとしてのメディア活用の能力を育てる教材のつながりを示したものである。

表2-4 読書活動計画の点線の意味と種類

点線の意味	点線の種類
主として、読書センターとしてのメディア活用能力を育てる学び方の指導を行う教材	- . - . - . →
主として、学習・情報センターとしてのメディア活用能力を育てる学び方の指導を行う教材 →

このように点線を用いてそれぞれの教材のつながりを示すことにより、教材間の関連が明確になり、継続して図書資料を活用する場が増え、多くの機会に教科等と関連させた読書活動を行うことができるのではないかと考えた。

昨年度の研究では、学習と関連させて読書への働きかけを行うと、子どもたちの読書活動は充実し読書の幅や量が増すことがわかった。(31)このことから考えても、教材間の関連を図り、より多くの機会に図書館教育を行うことは、子どもたちの読書活動を広め、深めていくことにも有効であると考えられる。また相互の教材の関連を考え、総合単元的な取組を行うこともできる。このように、教材を関連させて指導を行うことは、相互の学習内容がより深められ、子どもたちの力として定着を図ることができるのではないだろうか。

第4の視点として、それぞれの指導時期にあった図書のテーマを挙げた。このテーマに沿った詳しい図書の書名については、昨年度の研究紀要上で提示した読書活動年間計画に掲載したものを参考にしていきたい。(32)各教科等の教材の指導時期に合わせて、読書環境を整えることは、それぞれの学習内容を理解し、深めるために効果的であるとともに、子どもたちの読書活動へも影響すると考えられる。

それでは次に、以上四つの視点をもって作成してきた読書活動計画の見方とその活用方法について例を挙げて説明することにする。

下記の表2-5は、第1学年の読書活動計画から9月の計画を抜粋したものである。(全体計画については、付表として本稿末に提示している)

この月の指導計画では、まず月初めの国語科教材『◆みんなにしらせたいこと』に、「学び方の指導」として、[◆⑩発表の仕方]、[◆⑪発表の聞き方]という二つの主題を関連させた。これらの「学び方の指導」を通して学んだ内容は、2月の国語科教材『◆わたしはなんでしょう』の学習活動へと関連し、さらに発展する。

次に、国語科教材『★大きなかぶ』には、「学び方の指導」として、[★②易しい読み物を読む]、[★③内容の大体を読む]、[★④想像を広げなが

表2-5 第1学年 読書活動計画 9月 (一部抜粋)

	国語 (光村図書)	生活 (東京書籍)	音楽 (教育芸術社)	道徳	読書環境
9月	⑩⑪ ◆みんなにしらせたいこと	⑩ ◆どうぶつをみにいこう ⑩ ◆いきものをさがそう			・動物、生き物に関する図書
	②③④ ★大きなかぶ			・ソリちゃんとチュソク (韓国の話)	・世界の民話
	⑩⑭ ◆じどう車くらべ		・いいおとをみつけてあそぼう (ばばすはしる)	・みんなののりもの	・乗り物に関する図書

ら読む] という三つの主題を関連させた。この教材は、外国（ロシア）の民話であるため、「学び方の指導」として、外国の易しい民話を読むことが指導できる。さらに、京都市において道徳資料として挙げている、『ソリちゃんとチュソク』は、韓国の生活が描かれている絵本をもとに作成されているため、外国のお話として、同時期に関連させて指導することも考えられる。またこの時期の読書環境として、教室や学校図書館に世界の民話を準備し、発展読書の指導を行うとより効果的であると考える。

さらに、国語科教材『◆じどう車くらべ』では、「学び方の指導」として、[◆⑩図鑑等の使い方]、[◆⑭絵や文章を使ったまとめ方] という二つの主題を関連させた。この教材では乗り物に関する図鑑等を利用し、自動車のつくりやその働きについて調べそれをまとめて、手作り自動車図鑑を作成するという学習内容である。

そこで「学び方の指導」として、図鑑等の図書資料があることやそれらを利用する方法を指導すると、その学びは、同じ時期に学習する生活科教材『◆どうぶつをみにいこう』や『◆いきものをさがそう』の学習活動の中での図鑑等の利用にも関連していくと考える。

また、「学び方の指導」としては挙げていないが、関連するとして、音楽教材の『いいおとをみつけてあそぼうーばすばすはしるー』と、道徳資料『みんなのりもの』を挙げた。ここでは『◆じどう車くらべ』と関連づけて、乗り物に関して総合単元的な活動を設定して指導を行うこともできるのではないかと考える。

さらにこの時期の読書環境として、動物やその他の生き物、乗り物に関する図鑑等を子どもたちの身近に準備したり、学校図書館に揃えたりしておくことも、図鑑の利用を促進し、いろいろな場面で子どもたちが利用すると思われる。

以上のような考え方をもち、各月ごとに教科等の関連を考え、読書活動計画の作成を行った。なお本稿末には、第1, 3, 5学年の読書活動計画を掲載している。

このように、それぞれの教科等の特性や、指導内容を生かしつつ、各教科等の学習活動に「学び方の指導」を関連させることは、教科等の学習内容を深め、広げていくと考えられる。また同時に、学校図書館のメディア活用能力を育てていくことにもつながり、その積み上げが、子どもたちの読書活動を推進し、以後の読書活動や学校図書館の活用にも影響を与えていくと考えられる。

第2節 「学び方の指導」を取り入れた

学習活動の試み

本節では、先に作成した読書活動計画に基づき、京都市にて平成17年度から採択される国語科の教科書教材を用い、第1, 3, 5学年において「学び方の指導」を関連させた国語科の学習活動を行い、その学習の流れや子どもたちの活動の様子、活動後の成果および課題について述べていく。

(1) 第1学年 国語科と関連させた

「学び方の指導」の実際

第1学年では、作成した読書活動計画に基づき、7月の国語科教材『ほんとなかよし』の二つの指導事項（資料2-1）に、「学び方の指導」の四つの主題（資料2-2）を関連させた、全4時間の指導計画を作成した。

資料2-1 国語科の指導事項

- 易しい読み物に興味をもち、探して読む
- 見つけた本のことを、友だちにわかるように話す

資料2-2 「学び方の指導」の主題

- ★①易しい読み物に興味をもつ
- ★②易しい読み物を読む（聞く）
- ★⑥想像したことをまとめる
- ★⑦読んだ図書について紹介する

また、この指導計画に基づいて行った「学び方の指導」を通して、子どもたちが得た知識や読書意欲が、その後の読書活動にも生かされるように、発展的な取組も合わせて指導計画の中に位置づけることにした。下記の表2-6は、この指導計画の大まかな流れを示したものである。

表2-6 「学び方の指導」を関連させた国語科の指導計画

時数	第1学年 ほんとなかよし（光村図書）
第1時	1. 読み聞かせを聞く 2. 読み聞かせを聞いた感想や登場人物について話す 3. おもしろかった本について話す
第2時	1. 本探しゲームをする 2. 本のある場所を確認する 3. 本を探して読む
第3時	1. 紹介したい場面や内容を考える 2. 本の紹介カードを書く 3. 本の紹介の練習をする
第4時	1. 本を紹介し合う 2. 感想を発表する 3. 読みたい本を読む
発展	・ 互いの本の紹介や本の表紙絵などをもとに、朝の10分間読書の時間などに、読みたい本を選んで読む

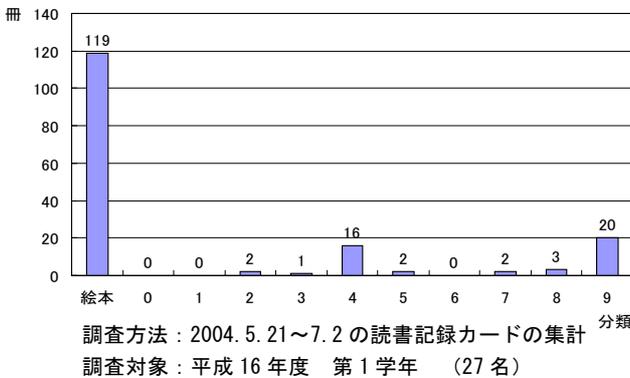
次に、この指導計画に基づいて行った学習活動の様子について述べていく。

第1時では、国語科の指導事項である〔○易しい読み物に興味をもつ〕に、「学び方の指導」の主題である〔★②易しい読み物を読む（聞く）〕を関連させた学習活動を行った。

この活動は、初めに指導者からの読み聞かせを聞き、次にその感想や登場人物について互いに発表し合い、最後に今まで読んだり聞かせてもらった本の中からおもしろかった本について発表するというものである。

第1時で読み聞かせに使う図書は、次時の本探しゲームにつなげるために、「動物」、「虫」という二つのテーマのものを選ぶことにした。その理由としては、どちらのテーマの図書も学校図書館には十分な冊数があること。そして、この時期の他の学習ともかかわり、子どもたちが興味や関心をもつと予想されることから考え設定した。また、事前に子どもたちの読書活動の様子を調べた結果、下記の図2-2で示すように、読んでいる図書の多くが絵本であることがわかった。さらに絵本の内容を分類してみると、そのほとんどが9分類（文学）の絵本に偏っていることもわかった。

図2-2 第1学年 読書傾向



このことを踏まえ、以後の読書活動や学習活動の中で、4分類（自然科学）の絵本についても手に入るようになってほしいと考え、指導者と相談の上、下記の表2-7で示す図書を読み聞かせ用の図書として挙げることにした。

表2-7 読み聞かせようとして選書した図書

テーマ	選書した図書の書名、著作者名、出版社名、分類
動物	『ぐりとぐら』 中川李枝子 福音館書店 (9分類) 『どうぶつの赤ちゃん ライオン』〈写真絵本〉 増井光子 金の星社 (4分類)
虫	『むしたちのおんがくかい』 得田之久 童心社 (9分類) 『ダンゴムシ』〈写真絵本〉 今森光彦 アリス館 (4分類)

上記の図書の読み聞かせを行った際の子どもたちは、日常的に読み聞かせを聞いていることもあり、集中して聞いている様子がうかがわれた。読み聞かせ後の子どもたちの様々な意見や感想などからも、楽しんでお話の世界を味わうことができたことが読み取れた。また、普段あまりなじみのない写真絵本にも興味を示し、食い入るようにページを見ている姿もたくさん見られた。

写真2-1
読み聞かせを聞いているところ



第2時では、国語科の指導事項である〔○見つけた本のことを、友だちにわかるように話す〕に、「学び方の指導」の主題である〔★①易しい読み物に興味をもつ〕を関連させた学習活動を行った。

その理由として、この学習活動において、学校図書館にはいろいろな図書があることを知り、そのたくさんの図書の中から、自分で読みたいものを選ぶことができるようにすることが大切だと考えたからである。

この学習活動は、学校図書館へ行き、第1時で読み聞かせを行った図書を参考に、下記の資料2-3で示す本探しゲームを行った。この活動を通して、設定したテーマの図書のある書架を知るとともに、読みたい図書を自分で選ぶ、読みすすめるということをねらいとした活動である。

資料2-3 本探しゲームの活動の流れ

1	探す本のテーマを知る「動物」
2	動物が登場するもので、自分が読める内容の本を、図書館全体の中から探す
3	図書が見つければ、〈名札カード〉と差し替えて、取り出す〈名札カード〉を手がかりにして、「動物」をテーマにした図書が入っていた書架を全員で確認し、その書架に指導者が〈どうぶつカード〉を貼る
4	また、図書に貼られている分類番号について知る
5	互いに選んだ図書を見せ合う
6	図書をもとの書架へ返却し、同時に〈名札カード〉を抜き取る
7	書架に貼られている〈どうぶつカード〉や分類番号を手がかりに、「動物」をテーマにした図書の中から、読みたいものを選ぶ
8	選んだ図書を読む

前ページの資料 2-3 で示した本探しゲームは、「虫」をテーマにした図書についても行った。

この第 2 時での子どもたちの様子からは、事前の図書館利用の際まで、9 分類の絵本書架に集中して集まっていたものが、本探しゲームになると、9 分類の絵本書架のみならず、4 分類の書架（写真 2-2）や雑誌書架（写真 2-3）など、複数の分野の書架へと目が向けられ、そこで、それぞれのテーマにあった図書を探している姿が見られた。



写真 2-2
4 分類の書架前



写真 2-3 雑誌書架前

また、選んだ図書を書架から抜き出す際には、下記の写真 2-4 ように、代わりに名札カードを入れた。さらにその書架に、どのテーマの図書が入っているのかがわかるように、どうぶつカードやむしカード（資料 2-4）を貼った。この活動により、どの書架に、どのテーマの図書があるのかが、子どもたちにもひと目でわかるようになった。



写真 2-4 名札カードの活用



同時に、図書に貼られている分類ラベルにも着目させ、図書が番号によって仲間分けされていることを押さえた。そして、書架の上に表示されている分類番号を示すボードを見ることによっても必要な図書が探せることを伝えた。

このように、図書館の中には 9 分類の絵本以外にも自分たちの力で読める図書がたくさんあること、また、それらの図書がどの書架に入っているのかを知ることができ、本探しゲームの後、上記の資料 2-4 で示したカードや分類番号を手がかりに、一人ひとりが自分の読みたいと思う図書を探ることができた。また、右上記の写真 2-5 で示

すように、事前の図書館利用の際には 1 冊の図書を複数の子どもたちがともに読んでいた姿を多く見かけたが、この活動後には、下記の写真 2-6 のように一人ひとりが自分の読みたい図書を選び、それを読みすすめる姿が見られるようになった。



写真 2-5 (上)
事前の図書館利用の様子

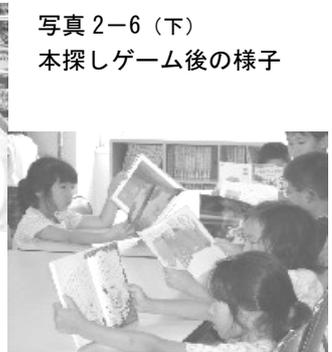


写真 2-6 (下)
本探しゲーム後の様子

第 3 時では、国語科の指導事項である〔○見つけた本のことを、友だちにわかるように話す〕に、「学び方の指導」の主題である〔★⑥想像したことをまとめる〕を関連させた学習活動を行った。

国語科の指導事項に、この「学び方の指導」を関連させた理由は次の 3 点である。

まず 1 点目は、本の紹介活動に入る前に、もう一度自分が読んだ図書を振り返り、自分の言葉で紹介したい部分や心に残った事柄を読書記録として紹介カードに書き留めることにより、紹介する内容がはっきりとわかり伝えやすくなるからである。

2 点目としては、本格的に学校図書館を利用し、図書を読んだり図書の貸出や返却を経験したりし始めるこの時期に、読後の記録の書き方を伝えることは以後の読書活動につながると考えたからである。

3 点目としては、著作権や情報モラルについての指導の必要性が指摘されている現在、書名や著作者名を意識し、著作者を大切にすることを伝えていくことは必要であると考えたからである。

第 3 時での子どもたちの様子については、子どもたちが自ら読みたいと思って選んだ図書は、興味や関心をもって読みすすめ、最後まで完読することができていた。さらに、読んだ図書を今度は友達に紹介するという事で、もう一度振り返り、相手意識をしっかりとって紹介カードに挿絵を描いたり、好きな場面や心に残った場面を読み返し文章にまとめたりしようとしている姿が見られた。次ページの写真 2-7、2-8 は、その時の子どもたちの様子である。

図書を読み返しなが
ら、紹介カードを書い
ている様子

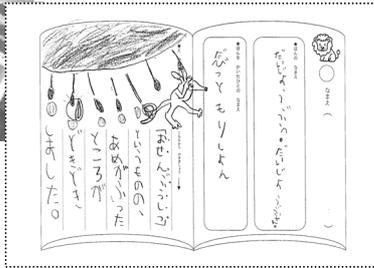


写真 2-7 (下)



写真 2-8 (上)

資料 2-5 (右)
子どもが書いた
紹介カード



また上記の資料 2-5 は、子どもたちが書いた紹介カードの一部である。この紹介カードを書くことにより、子どもたちからは「〇〇さんが紹介した本を書いた人とおんなじ名前の人の本や」や「この人の名前は片仮名で書いてある」など、著作者や書名に着目した言葉が聞かれた。

第 4 時では、国語科の指導事項である〔〇見つけた本のことを、友だちにわかるように話す〕に、「学び方の指導」の主題である〔★⑦読んだ本について紹介する〕を関連させた学習活動を行った。

この活動は前時に書いた紹介カードに基づき、実物を見せながら図書の紹介をし合い、その後、紹介された図書の中から自分の読みたいものを選び読んでいくというものである。

さらに発展として、その後の読書活動につながるように、下記の資料 2-6 で示す児童名と紹介する書名を記入した読書記録カードを配布し、紹介を聞いた後、読みたいと思った図書に〇印をつけた。そして、〇をつけた図書を読んだら色を塗るようにした。

資料 2-6 読書記録カード

どうぶつ や おしの ほんを よもう! ①				
1ねん なまえ()				
No.	しょうかいしたひと	ほんのなまえ (読みたい) / かいたい本のなまえ (もしよめい)	よんだ日	ほんのなまえ
1		ちいさな いきもの ひだか よしたか	〇 にち	
2		てんとうむし こじま けんし	〇 にち	
3		うりぼう なかよしだいかぞく ふくだ ゆきひろ	〇 にち	
4		ねずみくんのたんじょうかい あさの ななみ	〇 にち	
5		ふとつちよねこ じゃつく・けんと	〇 にち	

子どもたちが紹介したすべての図書をしばらく学級に置き、この読書記録カードを手がかりに、朝の 10 分間読書などに読みすすめるように指導した。こうすることにより、ひとり 1 冊ずつの紹介とはいえ、約 30 冊の図書を読むことができ、友達の紹介を聞いていることから、教材『ほんともだち』の指導終了後も子どもたちの読書活動は続けられると考えた。

「学び方の指導」における図書の紹介については、紹介することや紹介を聞くこと自体が目的ではなく、紹介するためにさらに図書を読み深めたり、紹介を受け、読みたいという次の読書意欲につながったりすることが大切であると考えた。そのためには、紹介カードの発表に終わらず、実際に図書を見せながら紹介する活動を行う必要があると感じている。

第 4 時では、4 名または 5 名のグループの中で紹介活動を行った。紹介時には、下記の写真 2-9 のように伝えたいページを見せながら紹介する子どもや、写真 2-10 のように図書の表紙を見せながら紹介する子どもなど、それぞれが工夫して紹介する様子が見られた。また紹介を聞いている子どもたちも、興味深そうに聞き入っている姿が見られ、手持ちの読書記録カードには、一人平均 4 ~ 5 冊の書名に読みたいと〇印がつけられていた。



写真 2-9 (上)
挿絵を見せながら紹介



写真 2-10 (下)
表紙絵を見せながら紹介

その後の読書タイムでは、写真 2-11 に示すように真剣に読書をしている子どもたちの姿が見られた。

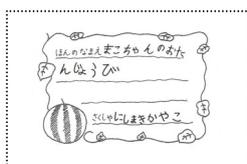
写真 2-11 紹介を聞いた後の読書の様子



下記の資料2-7は、夏休み中の課題として出された読書記録の一部である。

指導者によると、「学び方の指導」を関連させた国語科の学習活動を通して読書記録の書き方がわかり、課題として出された読書の記録にも、おもしろかったところや好きなところがしっかりと書けるようになったということである。また、資料2-8で示すように、「ほんのなまえ」(書名)や「さくしゃ」(著作者名)も意識して書くことができるようになってきている。

資料2-7 読書記録



資料2-8
書名・著作者名

指導者に、さらに夏休み以降の子どもたちの様子についても伺ったところ、下記の資料2-9で示す変化が見られるようになったということである。

資料2-9 夏休み以降の子どもたちの様子

- 友達同士で「おもしろかったよ」と本の情報交換をするようになった
- 今まで、自分で読みきれない本を借りることもあったが、最後まで読みきれぬことを意識して借りるようになった
- 虫や動物に関する本の場所がしっかりとわかり、本が分類ごとに分かれて並んでいることがわかるようになった子どもが多い
- 図書館で本を借りる時には、絵本書架からだけでなく、自分でいろいろな書架から本を探すようになった
- 「こんな本は、どの場所にあるの」と自分から尋ね、分類番号を伝えたとその場所へ行き、本を探せるようになった

このような子どもたちの変化から、国語科の学習活動に「学び方の指導」を関連させることは、図書の選び方や分類について知ることができ、意欲的に図書を選び紹介するという子どもたちの活動につながった。また、その後の読書活動へも広がりを見せることもわかった。このことから考えて、「学び方の指導」を関連させた学習活動は、15ページの資料2-1に示した国語科の指導事項の達成にとっても、子どもたちの読書活動にとっても効果的であったということができる。

(2) 第3学年 国語科と関連させた

「学び方の指導」の実際

第3学年では、作成した読書活動計画に基づき、11月の国語科教材『食べ物はかせになろう／本で調べる』の三つの指導事項(資料2-10)に、「学び方の指導」の八つの主題(資料2-11)を関連させた、全11時間の指導計画を作成した。

資料2-10 国語科の指導事項

- いろいろな読み物に興味をもち、読む
- 調べて書く必要のある事柄を収集したり、選択したりする
- 書こうとするものの中心を明確にしなが、段落と段落の続き方に注意して書く

資料2-11 「学び方の指導」の主題

- ★① 目的に応じて、いろいろな分野の読み物に興味をもつ
- ★② 目的に応じて、いろいろな分野の読み物を読む
- ◆⑧ 目次や索引について知り、利用する
- ◆⑨ 文章を使ったまとめ方
- ◆⑩ 抜き書きや切抜き資料を使ったまとめ方
- ◆⑪ 写真や絵、図表を使ったまとめ方
- ◆⑫ 発表の仕方
- ◆⑬ 発表の聞き方

しかし、今回は来年度の教材を先行して行ったため、他の指導時間との関係で各1時間ずつに短縮し、計5時間の指導計画として行った。

また子どもたちが得た知識や読書意欲が、その後の読書活動にも生かされるように、発展的な取組も合わせて指導計画の中に位置づけることにした。下記の表2-8は、この指導計画の大まかな流れを示したものである。

なお、本研究で学習活動を行った時数は各1時間ずつであるが、下表は来年度の指導計画にそった時数である。

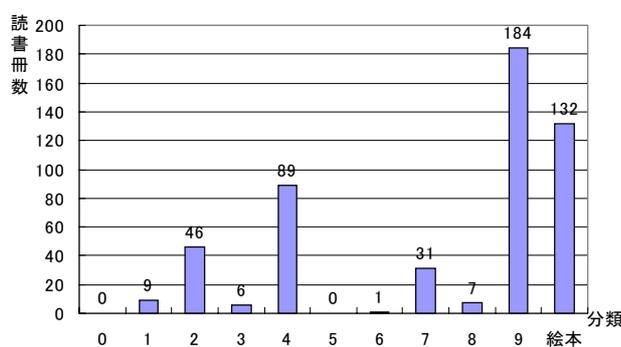
表2-8 「学び方の指導」を関連させた国語科の指導計画

時数	第3学年 食べ物はかせになろう／本で調べる(光村図書)
第1, 2時	1. 「食べ物はかせになろう」を読み、学習の見通しをもつ 2. 「食べ物」(材料、料理、食品)について話す 3. 「食べ物」に関する図書を探す 4. 「食べ物」に関する図書がある場所を確認する 5. 「食べ物」に関する図書を読む
第3, 4時	1. 図書の探し方や調べ方を確認する 2. 調べるテーマや内容を定める 3. テーマに沿って必要な情報を集める
第5, 6時	1. 抜き書きの仕方を知る 2. 必要な事柄を書く 3. わからない言葉を調べる
第7, 8, 9時	1. 集めた情報の中から、書く順序を決める 2. 調べたことを文章にまとめる 3. 書いた文章を確かめる
第10, 11時	1. 紹介したい図書を選ぶ 2. まとめたことを紹介し合う 3. 感想を発表する 4. 読みたい図書を選んで読む
発表	紹介文や図書の表紙絵などをもとに、朝の10分間読書の時間などに、読みたい図書を選んで読む

それでは、前ページの表 2-8 で示した指導計画に基づいて行った学習活動の様子について述べていく。

まず初めにこの学習活動の事前に、子どもたちの読書記録カードから読書傾向を調べた。その結果、下記の図 2-3 で示すように 9 分類（文学）、絵本が多く、ついで 4 分類（自然科学）、2 分類（歴史）、7 分類（芸術）の順に読まれていることがわかった。さらに読まれた図書の内容について詳しく調べると、2 分類は伝記漫画、7 分類は漫画がその多くを占めていることがわかった。

図 2-3 第 3 学年 読書傾向



調査方法：2004. 5. 31～9. 3 の読書記録カードの集計
調査対象：平成 16 年度 第 3 学年 (21 名)

「食べ物はかせ」になるために必要な図書は、下記の表 2-9 に示す、5 分類、6 分類のものが中心である。これらの図書は、日常の子どもたちの読書傾向から見て、あまり読まれていない分野の図書である。そこでこの学習活動を通し、これらの図書を新たに手に取って読むようになってもらいたいと考えた。

表 2-9 「食べ物はかせになろう」で主に活用する図書

図書分類	主に活用する図書
031	日本語
383	衣食住の習俗
470	植物学 植物の図鑑
480	動物学 動物の図鑑
487	脊椎動物 魚の図鑑
488	鳥類 鳥類図鑑
489	哺乳類 哺乳類図鑑
588	食品工業, 微生物工業 みそ
596	食物・料理 バター, ヨーグルト, 納豆, とうふ, 漬物, パン, 麺, しょうゆ, みそ
615	作物栽培, 病虫害, 農業
616	食用および飼料作物 ダイズ, サツマイモ, ジャガイモ, トウモロコシ, イネ
617	工芸作物 こんにやく, お茶

619	農産製造	とうふ, 納豆
625	果樹栽培	みかん, りんご, ブドウ
626	蔬菜栽培	ゴーヤ, トマト, ナス, キュウリ, イチゴ, スイカ
645	家畜飼養	ヤギ, ぶた, 乳牛
647	みつばち	
648	畜産製造, 畜産物	チーズ,
654	森林保護	シイタケ
667	水産物製造, 水産食品	
668	水産物利用, 水産工業	
669	製塩	

第 1 時では、国語科の指導事項である〔○いろいろな読み物に興味をもち、読む〕に、「学び方の指導」の主題である〔★①目的に応じて、いろいろな分野の読み物に興味をもつ〕と〔★②いろいろな分野の図書に興味をもち、読む〕を関連させた学習活動を行った。

その活動内容は、しょうゆや味噌、納豆、豆腐、黄粉など、いろいろな食べ物の形で利用されている大豆製品をもとに、身近な食べ物について関心をもち、知りたい事柄について図書を利用して調べ、「食べ物はかせになろう」という学習活動である。

この活動では、目的に応じた図書を選択・活用し、必要な情報を集める活動につなげていくために、食べ物に関して十分に興味づけを行う必要があると考えた。そこで、実際に様々な大豆製品や青大豆、黒大豆、茶大豆など、いろいろな種類の大豆を集め提示することにした。

また前述の事前調査の結果から見て、子どもたちが普段手にすることの少ない分野の図書を利用することは、少々難しい面があるのではないかと考え、前述の実際の食品を提示し興味づけを行った後、学校図書館にて、上記の表 2-9 で示す分類の中から、「食品」、「材料」、「料理」という三つのテーマで図書を探す活動を行った。この活動では、それぞれのテーマの図書がどの書架に入っているのかが一目でわかるように、見つけた図書に合わせて、次ページの資料 2-12 で示すテーマ別のカードを書架に貼る活動を行った。その時の様子が、次ページの写真 2-12 である。また、子どもたちが見つけた食べ物に関する図書は、次ページの写真 2-13、写真 2-14 で示すように、「食品」、「材料」、「料理」というテーマごとに分け、机の上に並べていった。

その後、書架に貼った食べ物のテーマ別カードをもとにして、これらの図書が入っていた書架を全員で確認した。

写真 2-12 (右)

資料 2-12
書架に貼った
食べ物テーマ別カード



写真 2-13 (左)



写真 2-14 (右)

次に、「食品」、「材料」、「料理」というテーマごとに分けて机の上に並べた図書を手にとって読み、そこから自らのテーマや課題設定のために必要な図書を探し、どの食べ物について調べるのかということを決めた。

第1時での子どもたちの様子については、初めは、今まであまり手に取ったことのない、食べ物という分野の図書の活用に戸惑っていたものの、机上にテーマごとの図書が並び始めると興味を示し、下記の写真2-15で示すように、並んだ図書を読み始める子どもたちの姿が、たくさん見られるようになった。また書架に貼った食べ物のテーマ別カードをもとに、さらに関連する図書を探す子どもたちの姿も見られた。

図書を読んでいる子どもたちに、食べ物に関する図書を読んだ感想を尋ねたところ、多くの子どもたちから「おもしろい」、「こんな本は、初めて読んだ」、「こんな本が、図書館にあったのは知ら

写真 2-15
図書を読んでいるところ



なかった」というような言葉が返ってきた。

この第1時の学習活動を行ったことにより、子どもたちは新たな分野の図書と出会うことができ、この活動が以後の学習活動にも生かされていくと考える。

第2時では、国語科の指導事項である〔○調べるテーマに即した事柄を収集したり選択したりする〕に、「学び方の指導」の主題である〔◆⑧目次や索引について知り、利用する〕を関連させた学習活動を行った。

この活動ではまず、第1時で行った食べ物に関連する図書探しを振り返り、それらの図書がある書架を確認した。そして、前時に読んだ食べ物に関する図書や新たに探した食べ物に関する図書を参考に、自分の調べるテーマや内容を決めた。

これが決まると、いよいよ「食べ物はかせ」になるために必要な情報を集めなければならない。そこで必要な情報を探す手がかりとして、目次や索引の意味とその活用方法について、下記の資料2-13で示す学習プリントを用い「学び方の指導」を行った。そしてその後、図書を活用して必要な情報を集めていった。

資料 2-13

「目次・さく引を利用しよう！」学習プリント

本と友だち ② <目次・さく引を利用しよう！>

年 組 ()

★目次・さく引ってなんだろう？

目次…

- 本のはじめにあります。
- 内よりの見出しが、ページのじゆんにならべてあります。

さく引…

- 本の終わりにあります。
- その本に書かれている事からや人物・地名などが五十音じゆんにならび、そのページが分かります。
- 調べたいものの名前がわかっていない時につかいます。

そだててあそぼう ● 9

見出し **ダイズの絵本** ページ

1. ダイズは「畑」の年商だ！……………	2
2. 畑はそこ、畑はうち、でもなんでママをまくんだらう？…	4
3. ダイズの葉は運動がすき……………	6
4. ダイズはマジシャン！・しかけは複雑……………	8
5. 品種はかぞえきれないほど……………	10
6. 栽培ごよみ……………	12
7. ダイズはどんな「畑」でもつくれる……………	14
8. 注意！ダイズの身は、ハトの天婦物！……………	16
9. とじたままで受贈することもあるダイズのふしぎ……………	18
10. 「畑」がなくても、ダイズはつくれる……………	20

(以下省略)

【タ】

ダイサイ	168
ターメリック (ウコン)	171
タイアザミ (トネアザミ)	174
ダイオウ	166
タイガ	144
ダイコン	169
タイサンボク	30
ダイズ	170, 173
ダイゼン	180
ダイオウ子	135
タイトゴメ	128
タイム	39

『ダイズの絵本』こくぶん社 / ヘル 農文園より 一部抜粋 小学館の図鑑NO1 『雑物』小学館より 一部抜粋

★目次とさく引をつかって調べてみよう！上の目次やさく引を見て答えましょう。

◇ ダイズの種類 (品種) については、『ダイズの絵本』のなんページにのっていますか。

◇ ダイズについては、『雑物』図鑑のなんページにのっていますか。

読みたい本をさがすとき、本を1さつぜんぶ読むのは大へん。
目次やさく引をつかうと 読みたい本が 見つけやすいよ！

この第2時での子どもたちの様子については、前時に食べ物に関する図書探しを行い、もう一度、本時でもそれらの図書がある書架を確認したこと

により、目的に応じた図書を探す子どもたちの活動がスムーズに行われた。また第1時で確認した、食べ物に関する図書がある書架以外にも、必要な図書を求めて様々な書架を捜す子どもたちの姿が見られた。

さらに目次や索引についての指導を行ったことで、それらをうまく活用し、必要な情報を得る子どもたちの姿も見られた。

目的に応じて集めた図書の中から、自分の課題解決のために必要な事柄が書かれた部分が見つければ、次時の活動に活かすためにそのページに付箋を貼り目印とした。

第3時では、国語科の指導事項である〔○情報を収集したり選択したりして、必要な事柄を書く〕に、「学び方の指導」の主題である〔◆②抜き書きや切抜き資料を使ったまとめ方〕を関連させ、必要な情報の抜き書きの仕方と出典を明らかにすることについての学習活動を行った。

この活動では、まず、第2時で集めた様々な図書から必要な情報を選択しまとめていくために、できる限り自分の必要な情報を正確に書くよう抜き書きの仕方を伝えた。またそれと同時に、著作権の観点から、抜き書きした情報の出典を明らかにする必要があることを伝え、奥付けの見方を指導した。さらに、難しい言葉やわからない言葉があった場合には、国語辞典を利用するように伝えた。

このような指導の後、下記の写真2-16のように子どもたちは第2時で集めた様々な図書から自分の課題について調べ、抜き書きしながら必要な情報を集めていった。また、集めた情報の書名・著者名・出版社名・出版年を記録し、その出典を明らかにしていった。

子どもたちにとっては、奥付けを見てその出典を記述することは難しく、なかなか書けない場面も見られた。しかし、書名・著者名・出版社名・出版年を記録することに

写真2-16 必要な情報を集めているところ



については、国語科の教科書にも指導内容として挙げられており、また今後の情報活用においても必要な指導内容であると考え。そのためにも、難しいがゆえに機会あるごとに繰り返し指導してい

く必要がある事項である。

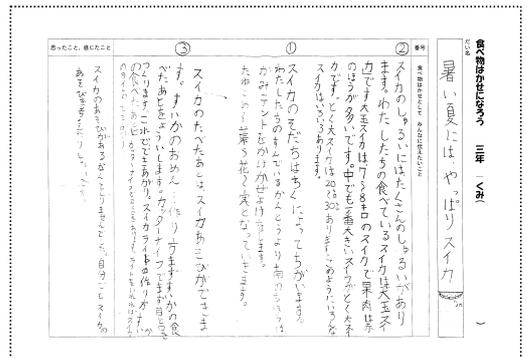
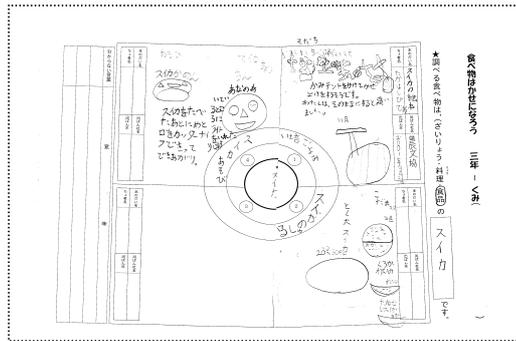
さらに国語辞典については、数人の子どもたちが意味や言葉を調べるために使用していたので、その利用を促す言葉かけは必要であったと考える。しかし、1時間という短い活動時間の中で、必要な情報の抜き書きをしてその出典も書き、その上国語辞典も利用するとなると、少し無理があったかもしれない。ただし、来年度の指導計画では、2時間扱いの学習活動であるため、もう少しゆとりをもって活動できるのではないかと思われる。

第4時では、国語科の指導事項である〔○「食べ物はかせ」として、知らせたい事柄の中心を明確にしながらかく〕に、「学び方の指導」の主題である〔◆②文章のまとめ方〕を関連させた学習活動を行った。

この活動では、まず下記の資料2-14で示す前時までに集めた情報の中から、伝えたい事柄を決め、それを伝える順序を考えた。そして次に、決めた順序に従って、下記の資料2-15で示すように文章をまとめていった。

また合わせて「学び方の指導」として、内容ははじめ・中・終わりと大きなまとまりに分け、組み立て方を工夫して文章を書くように示した。さらに、必要に応じて絵や図表を用いると、文章の説明を補う働きもあり、効果的であることを伝えた。

資料2-14 集めた情報



資料2-15 まとめた文章

本来ならば活動時間が3時間必要なところであるが、ここでも1時間という短い時間で行ったため、この第4時での子どもたちの様子については、絵や図表などを活用してまとめる時間が十分取れなかった。そのため、前ページの資料2-15で示したまとめプリントのように、文章中心のものが大半を占めた。



写真 2-17
調べた事柄を文章にまとめているところ

しかし上記の写真2-17で示すように、文章をまとめる時にも、もう一度図書を振り返り正確な情報を得て、それを発信しようと取り組んでいる姿が見られた。

第5時では、国語科の指導事項である〔○食べ物に関する図書に興味をもち、読む〕に、「学び方の指導」の主題である〔★①目的に応じて、いろいろな分野の読み物に興味をもち〕、〔★②目的に応じて、いろいろな分野の図書を読む〕、〔◆④発表の仕方〕、〔◆⑤発表の聞き方〕を関連させた学習活動を行った。

この活動では、それぞれが情報を集めるために利用した複数の図書の中から一番紹介したいものを一冊選び、「食べ物かせ」としてみんなに伝えたい内容とともに、合わせて選んだ図書の紹介も行った。このように発表時に利用した図書を紹介することは、クラス全員が同じ食べ物というテーマで調べ活動を行ってきたことから、自分が調べた食べ物以外の物についても興味をもち、発表内容とともに多くの図書を知る機会ともなり、以後の読書活動に生かすことができると考えたからである。

また発表時には、〔★②目的に応じて、いろいろな分野の読み物を読む〕のために、「学び方の指導」として、それぞれの子どもたちが紹介した図書と紹介者を書いた読書記録カードを配布した。このカードを利用し、発表を聞いて興味をもったり読みたいと思ったりした図書に○印をつけていった。この活動を入れることにより、読みたいという気持ちがその後も継続し、以後の読書活動にもつながっていくと考えた。

最後にそれぞれの発表を振り返るために、感想を述べ合い、紹介された図書の中から読みたいものを選んで読むという活動を行った。

また発展としてさらに読書活動が広がるように、朝の10分間読書の時間等に配布した読書記録カードをもとにして、興味をもったり読みたいと思ったりした図書を読む活動を位置づけた。

第5時での子どもたちの様子については、下記の写真2-18で示すように、一人ひとりの食べ物についての発表をクラス全員で聞くことになった。時間的には少し長い発表会となったが、どの子どもも同じテーマで情報を集め、調べたりまとめたりしてきたため、発表者の話をしっかりと聞き、最後の感想の交流では、発表を聞いて初めてわかったことや知ってびっくりしたことなどを互いに話すことができた。

写真 2-18
発表をしているところ



また発表の際に提示した図書は、発表の際の補足資料となったり、子どもたちの興味や関心を引く材料となったりした。そのため、配布していた読書記録カード(資料2-16)にも、たくさんの書名に読みたいと○印がつけられることとなった。

その後紹介された図書をすべて展示し、読みたい図書を自由に読む時間を設定した。

その後紹介された図書をすべて展示し、読みたい図書を自由に読む時間を設定した。

下記の写真2-19と写真2-20は、その時の子どもたちの様子である。

資料 2-16 読書記録カード

食べ物について いろいろな本を読もう! 3年 組()

NO	読みたい本に○をつけよう	しょうか いした人	たい名/ちよ作者名	読み終わった日	ひとこと感想	おすすめします!
1			ダイズの絵本	/		
			国分まきえ			
2			トウモロコシの絵本	/		
			とざわひでお			



写真 2-19 (上)
発表後の読書の様子

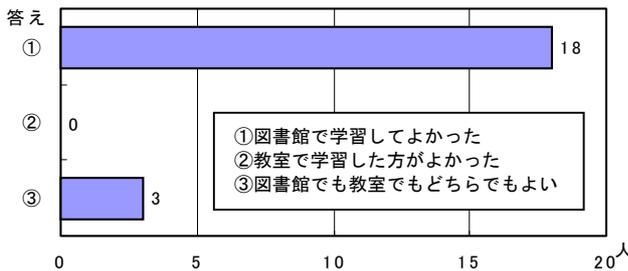
写真 2-20 (下)
発表後の読書の様子



前ページの写真 2-19 のように、一人ひとりが読みたい図書を選んで読んでいる姿や、写真 2-20 のように 1 冊の図書を数人で読む姿などが見られ、それぞれが紹介された図書を楽しむことができた。

この 5 時間の指導計画に沿った学習活動終了後、子どもたちに学校図書館で行った授業についてのアンケートをとったところ、下記の図 2-4 で示す結果になった。またその理由として、下記の資料 2-17 のような記述があった。

図 2-4 学校図書館で学習を行って



調査方法：授業後のアンケート

調査対象：平成 16 年度 第 3 学年 (21 名)

資料 2-17 ①を選択した理由

- ・ 図書館の方が本がたくさんあって、食べ物のことがたくさん調べられるから
- ・ 本がいっぱい調べられるのいいから
- ・ 本を見ながら勉強できるから
- ・ とても静かで勉強しやすいから
- ・ 落ち着いてできるから
- ・ 涼しいし広々しているから
- ・ 本がすぐに借りれるし、広いから

このアンケートの結果、上記の資料 2-17 に挙げた理由から、学校図書館で行った学習は多くの子どもたちが良かったと感じていることがわかった。また授業後、下記の資料 2-18 で示す感想が子どもたちから寄せられた。

資料 2-18 授業後の子どもたちの感想

- ・ いろいろ本が探せたのでうれしいと思った
- ・ 教室で勉強するより楽しかったし、いろんなことが知れてよかった
- ・ いろいろ知らなかった食べ物のことがわかってよかった
- ・ この前より、少くらは物知りになれたと思う
- ・ 本を見て勉強すると、とても不思議やなと思ったりよくわかったりしたからすらすらできた
- ・ いろいろな本を読んだり、発表を聞いたりして、リンゴのことや食品のことや料理のことがすごくわかった
- ・ 本はいろいろなページで学習できるなと思った
- ・ わからないことがいっぱい調べられてよかった
- ・ 本の分類を見ると、とてもわかりやすかった

これらの感想から、学校図書館を利用し図書を活用した学習活動は、様々な知識を得ることができ、子どもたちにとって楽しく、満足のいく学習だったことがわかる。

また、「本の分類を見ると、とてもわかりやすかった」という感想から、国語科と関連させた「学び方の指導」として、学校図書館にはいろいろな図書があり、それらは内容や種類によって分類されており、それぞれ決まった書架に入れられていることを指導することは、国語科の指導内容を深めたり子どもたちの学びを広げたりすることにつながり、その後の学習活動や読書活動にも大きく影響を及ぼすといえる。

資料 2-19 指導者から

- 食べ物に関する図書に対して親しみや興味をもつ子どもが増え、気軽に調べるようになった
- 総合的な学習の時間で、育てる農作物について調べる時や、社会科の農業の学習の時など、もっと詳しく調べたい農作物がある時には、どの書架を探せば必要な図書があるのかすぐにわかり、取り出して調べることができた
- 食べ物に関することに興味をもつ子どもも増え、育てた野菜で漬物を作る学習では、早速図書館に行き、本を探して借りてきていた
- 社会科の「商店の働き」の学習後、校区にある店で扱っている豆腐や肉、野菜、果物、パンなどについても、本で調べてより深めていた
- 今まで関心の薄かった、お正月に関係のある餅やそば、うどん、すしなどの本も手にとって見ていた
- 自分で食べ物に関する本を選び、読むだけでなく、手伝いとして料理作りや買い物に関心をもち、意識して食べ物を見る児童が増えたように思う

また、指導者にこの学習活動後の子どもたちについて伺ったところ、上記の資料 2-19 で示す様子が見られたということである。

国語科の学習に「学び方の指導」を関連させた学習活動後の子どもたちの様子から考えて、学習に必要な図書の選書が行いやすくなったほか、図書の分類や活用の仕方がわかり、その後、社会科や総合的な学習の時間などでの調べ学習へと発展していることがわかる。また、食べ物に関連する図書に興味や関心を示し、その後の読書活動へも発展していることがわかる。

このことから考えて、国語科を中心に教科等と関連させて「学び方の指導」を行っていくことは、子どもたちの学習活動を支える手立てとして有効であると考えられることができる。

(3) 第5学年 国語科と関連させた
「学び方の指導」の実際

第5学年では、作成した読書活動計画に基づき、11月の国語科教材『工夫して発信しよう／編集して伝える』の六つの指導事項(資料2-20)に、「学び方の指導」の15の主題(資料2-21)を関連させた、全8時間の指導計画を作成した。

資料2-20 国語科の指導事項

- 全体を通して、書く必要のある事柄を整理する
- 伝えたい内容を表現するのにふさわしい方法を考える
- 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて記録する方法を考える
- 話の組み立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話す
- 話し手の意図を考えながら内容を書く
- 自分の立場や意図をはっきりさせながら話し合う

資料2-21 「学び方の指導」の主題

- ★①必要な図書資料を選択する
- ★②必要な図書資料を選択して読む
- ◆⑧学校図書館のはたらきとその利用
- ◆⑨各種文化施設のはたらきとその利用
- ◆⑩事典等の使い方
- ◆⑪新聞、雑誌等の使い方
- ◆⑭実物や掲示・展示資料等の使い方
- ◆⑮人的情報源の活用
- ◆⑯視聴覚メディアの活用
- ◆⑰電子メディアの活用
- ◆⑱情報の整理の仕方
- ◆⑲文章のまとめ方
- ◆⑳抜き書きや切抜き資料を使ったまとめ方
- ◆㉑発表の仕方
- ◆㉒発表の聞き方

第5学年の指導計画においては、全8時間中15もの「学び方の指導」の主題を位置づけている。しかし、上記の資料2-21で示す、下線を引いた以下八つの主題、〔◆⑧〕、〔◆⑨〕、〔◆⑩〕、〔◆⑪〕、〔◆⑭〕、〔◆⑮〕、〔◆⑯〕、〔◆⑰〕については、子どもたちの実態に応じて適宜指導する内容とした。その理由として、学習活動中に子どもたちがもった課題によって、取材方法が異なるためである。そこで、子どもたちの取材する内容や取材方法を考えた上で必要だと思われる「学び方の指導」の主題をすべて挙げたため、結果的に多く挙げることとなったのである。

またこの学習活動で学んだことや活用した図書資料等が、学習終了後の読書活動へと広がるように、発展的な取組も合わせて指導計画の中に位置づけることにしたため、「学び方の指導」の主題で

ある、資料2-21で示す波線を引いた〔★①〕、〔★②〕も位置づけたが、こちらも適宜子どもたちの実態に合わせて指導するものとする。

下記の表2-10は、この指導計画の大まかな流れを示したものである。

表2-10 「学び方の指導」を関連させた国語科の指導計画

時数	第5学年 工夫して発信しよう／編集して伝える(光村図書)
第1時	1. 『工夫して発信しよう』を読み、学習内容を理解して見通しをもつ 2. ニュースにしたい話題を選ぶ
第2時	1. 様々な取材方法を知る 2. 取材方法や表現方法について話し合う 3. グループごとに活動の手順や役割分担を考え、計画を立てる
第3時	1. 情報の記録の仕方について知る
第4時	1. 計画に沿って、必要な事柄を取材する 2. 集めた情報を記録する
第5時	1. 伝える中心となる事柄について話し合う 2. ニュースの順序を考えて編集する
第6時	1. 工夫してニュースの読み原稿を書く 2. 読み原稿を確認する 3. 聞き手にわかりやすい工夫をする
第7時	1. ニュースを作り上げる 2. ニュースを伝える練習をする
第8時	1. わかりやすく、効果的にニュースを発信する 2. 感想や意見を交流して、学習を振り返る
発展	・ 図書資料を主体的に読む

第1時では、国語科の指導事項である〔○身の回りから、ニュースとして伝えたい事柄をさがす〕に、「学び方の指導」の主題である〔◆⑪新聞や雑誌等の使い方〕を関連させた学習活動を行った。

ここでの活動は、今後ニュース作りをしていくにあたり、まず初めに前時までに学習した、『ニュース番組作りの現場から』を思い起こし、ニュースの特徴について話し合った。

次に「学び方の指導」として、子ども新聞や、子どもニュースを録画撮りしたものを活用し、新聞やニュース番組の特長について話し合った。これらの話し合いから、ニュース作りをしていく上で、自分はどのような手段で情報を伝達していくのかということについて考えた。

最後に、どのような話題を取り上げ、ニュースとして伝えていきたいのかということについて話し合った。

第1時での子どもたちの様子については、次ページの写真2-21で示すように、実際に子ども新聞や子どもニュースを録画撮りしたものを活用し、そこからその特長を考えていくことにした。この活動を取り入れたことにより、そこからニュ

ース作りという活動に興味を示し、以後活発な意見が出されるようになった。

このように新聞という図書資料や映像を実際に活用することは、子どもたちに視覚から訴えることができ、子どもたちの思考を助ける手がかりとなったと考えられる。



写真 2-21 新聞の活用

その後の話し合いの中で、子どもたちが以後ニュースとして取り上げたい話題については、忍者や爬虫類、盲導犬、宇宙、古代生物、歴史、新撰組についてなど様々なテーマが上がり、その中から話し合っただけでテーマを絞り、それぞれの子どもたちが調べたいテーマを選んでグループ分けを行った。最終的なニュースのテーマは、次の資料 2-22 で示す 9 テーマとなった。

資料 2-22 ニュースのテーマ

- | | | |
|-----------|---------|----------|
| 1. 古代の生き物 | 2. 戦国時代 | 3. 太陽 |
| 4. 野鳥 | 5. 新撰組 | 6. 忍者 |
| 7. バレーボール | 8. 働く犬 | 9. ヘビ、クモ |

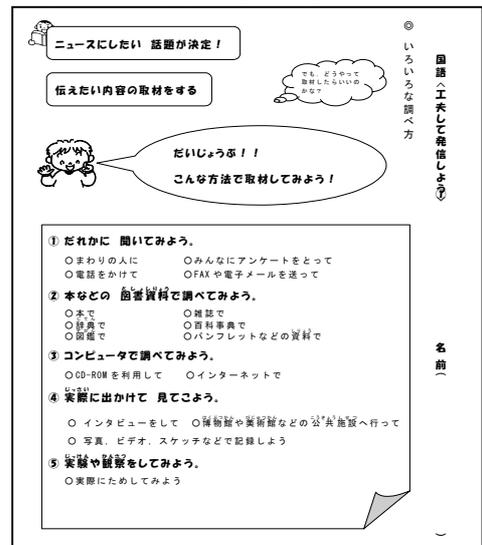
第 2 時では、国語科の指導事項である〔○伝えたい内容を表現するのにふさわしい方法を考える〕に、「学び方の指導」の主題である〔◆⑧〕、〔◆⑨〕、〔◆⑩〕、〔◆⑭〕、〔◆⑮〕、〔◆⑯〕、〔◆⑰〕を関連させた学習活動を行った。

この活動では、正確にニュースを伝えるためには多くの情報を集める必要があり、その情報の集め方には様々な方法があることを知る必要があると考え、上記で示す一つひとつの「学び方の指導」を詳しく指導するのではなく、右上記の資料 2-23 で示す学習プリントを用い、様々な情報収集の方法として簡単に指導した。そしてこれに基づき、自分たちが調べるテーマの取材方法について話し合うことにした。

これらの学習プリントを用いることで、子どもたちは、改めて様々な情報収集の方法があることを知り、とても驚いた様子だった。さらにこの学習プリントを活用することにより、自分はこの方法で情報収集していくのかを考える手がかりにもなったようである。また、以前経験した情報収集の様子を振り返り、意見としてその時の体験談がいろいろと出された。

資料 2-23

〔いろいろな調べ方〕学習プリント



次に、取材により得た情報を伝えるには、どのような方法があるのかを全員で話し合い、その後テーマごとのグループに別れ、どのような表現方法を用いニュースを伝えていくのかということについても話し合った。この第 2 時の学習活動を通して、子どもたちは取材の見通しをもつことができたようである。

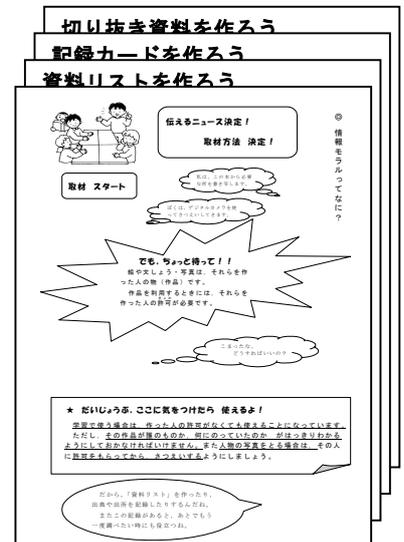
第 3 時では、国語科の指導事項である〔○集めた情報を、目的や意図に応じて記録する方法を考える〕に、「学び方の指導」の主題である〔◆⑱情報情報の整理の仕方〕を関連させた学習活動を行った。

それぞれがテーマに合わせ、集めた情報をわかりやすく記録したり整理したりする必要がある。そこで、この活動では「学び方の指導」として、下記の資料 2-24 で示す複数のプリントを用いて、〔資料リスト

の作り方〕、〔記録カードの書き方〕、〔切り抜き資料の作り方〕、〔記録カードの書き方〕、〔切り抜き資料の作り方〕について指導を行った。

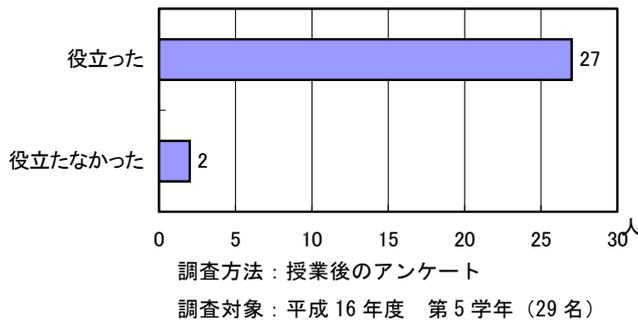
さらに、取材時には集めた情報の著作権や肖像権などを大切にすることが必要であることから、情報モラルについても関連させて指導を行った。

資料 2-24 学習プリント



この活動後、子どもたちに〔資料リスト〕、〔切り抜き資料〕、〔記録カード〕の活用についてアンケートを取った。下記の図2-5はその結果を示すものである。これによると、「学び方の指導」が「役に立った」と答えた子どもが27名、また「役に立たなかった」と答えた子どもが2名であるということがわかる。また、下記の資料2-25は、「役に立った」と答えた理由である。反対に、資料2-26は、「役に立たなかった」と答えた理由である。

図2-5 子どもたちへのアンケート結果



資料2-25 「役に立った」理由

- ・くわしくのっけて使えた
- ・調べたことが、チェックできるから
- ・次に見たときにも思い出せるから
- ・整理してあるので使いやすい
- ・記録カードは、読む原稿を作る時に使った
- ・どんなことがあったかを見直せるから
- ・順番がわからないときに見て覚えられる

資料2-26 「役に立たなかった」理由

- ・ほとんど使わなかったから
- ・情報を集めるのは、ほとんどがインタビューだったから

「役に立たなかった」と答えた子どもたちの理由をみると、情報収集の手段としてインタビューが中心だったことから、〔資料リスト〕、〔ファイル資料〕、〔記録カード〕をあまり活用しなかったということである。これは逆に、情報収集の方法が図書資料の活用だった場合には活用されたのではないかと考えられ、「学び方の指導」が子どもたちの活動に有効に機能したことが考えられる。

第4時では、国語科の指導事項である〔○必要な情報を取材し、目的や意図に応じて工夫して書く〕に、「学び方の指導」の主題である〔◆⑧〕、〔◆⑨〕、〔◆⑩〕、〔◆⑭〕、〔◆⑮〕、〔◆⑯〕、〔◆⑰〕、〔◆⑱情報の整理の仕方〕を関連させた学習

活動を行った。

この活動では、子どもたちがそれぞれのテーマにそった情報を集めるためには、その情報収集の方法や情報のまとめ方を具体的に伝える必要があると考えた。そこで、下記の資料2-27で示す学習プリントを活用し、「学び方の指導」として〔要点のまとめ方〕、〔ファクシミリの送り方〕、〔インタビューの仕方〕の具体的な方法について指導した。

資料2-27 学習プリント

インタビューをしよう
ファクシミリ送信書
ファクシミリを送ってみよう
要点をまとめよう

★自分の知りたことや調べてわかったことをカードに書いていこう。
(書くときのポイント)

- 大事な言葉だけを書く。
- 重要な事柄は忘れないように書く。(書いた後は、たしなめをする。)
- 事柄らに身をつけて書く。
- わからない言葉には、しるしをつけて、後で辞書検索を調べてみる。
- 後もかくとわかりやすい。

★要点をまとめて書く練習をしよう。

オカザンゴムシは、冬まわりの寒いときに卵を産みつけて「冬」を待っている。冬は「雪」の季節と寒い季節とで寒さが強い。寒さが終わるには1週間以上かかる。オカザンゴムシは、夏の間「冬」を待つ。ふ化した子どもは自分の力で産卵の卵の下にある新しい卵を食べて育つ。

●数字や名前を○をつけて書こう。書くときには正しく書きましょう。
●わからない言葉には□をつけて書こう。また、辞典で調べてみましょう。
●この文には、4つの事柄が書いてあります。
それぞれの事柄を短く書いてみましょう。

○ (例) オカザンゴムシは、産卵を繰り返して産卵して行く。
○
○
○
わからない言葉を書こう。また辞書検索を調べてみましょう。

その後、子どもたちが既に集めた情報を、前時で学んだ〔資料リスト〕や〔記録カード〕、〔切り抜き資料〕などにまとめたり整理したりする作業を行った。またさらに、本時で学んだ〔ファクシミリの送り方〕や〔インタビューの仕方〕を活用し、必要な情報を得るための作業を行った。

第3, 4時の子どもたちの様子については、情報モラルについて学んだことにより、下記の資料2-28で示すような感想や意見を持ち、自分が得た情報を記録したりまとめたりする場合には、しっかりと出典を記入している姿が見られた。

資料2-28 情報モラルを学んだ感想

- ・著作権や肖像権は雑誌とかで見たことはあるが、書き写したりする時に辞典を書くのは知らなかった
- ・人の作品を勝手に使ってはいけないと知った。
- ・権利があるというのは知っていたけど、作品が誰のか、辞典をちゃんと書いていなかったから、これからは書こうと思った
- ・人が作ったものなど、かってに自分のものにしたらだめだから、きちんと名前など辞典を書く

また、実際に情報を集めるためにインタビューに行くグループや、簡単には取材に行くことができない施設などから得たい情報があるグループは、前ページの資料2-27で示した学習プリントを活用することにより、ファクシミリを使い様々な回答や資料を得ることができた。

第5時では、国語科の指導事項である〔○編集作業を通して、伝える必要のある事柄を整理する〕に、「学び方の指導」の主題である〔◆⑱情報の整理の仕方〕を関連させた学習活動を行った。

ここでの活動は、まずそれぞれが前時までに集めた情報を持ち寄り、その中から伝える中心となる事柄について話し合った。次に中心となる事柄をわかりやすく伝えるために、必要な情報を伝える順を考え編集作業を行った。

この活動での子どもたちの様子は、編集作業と同時進行で発表資料を作成しているグループが多かった。下記の写真2-22も、編集作業をしながら、伝えたい事柄を新聞にまとめているところである。他にも、

発表内容に合わせて、ペープサートを作成しているグループやニュース番組に流れるテロップを画用紙に書いて見せようとして

写真2-22 編集作業の様子



いるグループなど、どのグループも様々な工夫をして編集作業を行っていた。

第6時では、国語科の指導事項である〔○わかりやすく伝えるために、組み立てや表現を工夫して原稿を書く〕に、「学び方の指導」の主題である〔◆⑲文章のまとめ方〕、〔◆⑳写真や絵、図表を使ったまとめ方〕を関連させた学習活動を行った。

この活動では、前時までに作成したニュース番組や新聞などを発表する時の読み原稿の作成を行った。また、さらに聞き手にとってわかりやすく、興味を引くものに仕上げるために、発表時の工夫について話し合った。

ここでの子どもたちの様子は、伝えるニュースに応じBGMを入れたり、大きな日本の掛け地図を活用したり、伝えるニュースの補足として録画したテレビ番組を活用したりと、様々な工夫している姿が見られた。

第7時では、国語科の指導事項である〔○自分の立場や意図をはっきりさせながら話し合う〕に、「学び方の指導」の主題である〔◆㉑写真や絵、

図表を使ったまとめ方〕、〔◆㉒発表の仕方〕を関連させた学習活動を行った。

この活動では、前時までに仕上げた読み原稿をニュース番組や新聞などに合わせて読む練習を行った。またよりわかりやすく伝えるために、ニュース資料の提示の仕方や原稿の読み方の調整も行っていった。

ここでの子どもたちの様子は、それぞれのグループの話し合いの中から、いろいろな工夫点を考え、それに応じて取り組んでいたが、指導者によるヒントや他のグループの工夫点についても互いによく取り入れ、より良いニュースを作ろうとしている姿が見られた。

第8時は、国語科の指導事項である〔○組み立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話す〕、〔○話し手の意図を考えながら内容を聞く〕に、「学び方の指導」の主題である〔◆㉓発表の仕方〕、〔◆㉔発表の聞き方〕を関連させた学習活動を行った。

この活動では、様々な方法で取材した情報を、ニュースとしていろいろな方法で伝え、他のグループの発表の良い点や工夫点について知り、そこで得た知識を今後の発表に活かしていこうとする学習活動である。

さらに**発展**として、この発表に合わせて活用した図書資料などを展示したり紹介したりして、以後の読書活動に活かしていった。

この学習活動を終えて、子どもたちからは、「ニュースを作る手順がわかったので、今度の発表に使いたい」や「太陽グループは話と映像があってよかった」など、学んできたことを今後活かそうとする感想や他のグループの良い点を述べた感想など、前向きな感想がたくさん寄せられた。また、「ファクシミリの送り方やインタビューの仕方がしっかりわかったので、次の総合の学習でもいかしたい」や「資料リストの作り方がわかったので、社会の世界の環境を調べる時にもやってみたい」などの感想も寄せられた。これらの感想から、この教材を通して多様な「学び方の指導」を行ったことが、子どもたちの学びに生かされ、そのことが他の教科等でも活用したいという意欲につながっていったのではなかと考えられる。

(30) 全国SLA『学校図書館11月号 2003 No. 637』全国SLA研究・調査部 2003.11 「2003年度学校図書館調査報告」p. 48

(31) 拙稿『平成15年度研究紀要 Vol. 2』京都市総合教育センター 2004.3 pp. 39~78

(32) 前掲 注(31)「付表1 読書活動年間計画」pp. 66~77

第3章 学習を支える図書館教育

第1節 国語科と関連させることで

前章では、教育課程に図書館教育を明確に位置づけるための一つの手立てとして、『メディア活用能力を育てる学び方の指導体系表』に基づいた読書活動計画を作成し、その中から、第1, 3, 5学年の国語科の学習内容と「学び方の指導」の指導内容とを関連させた学習活動を試みた。そして、その時の学習の様子や子どもたちの反応、事後の子どもたちの様子などについて述べてきた。

その結果、「学び方の指導」の指導内容の違いや学年の発達段階の違い、また今までの読書活動や図書館教育の経験の違いなどにより、事後の子どもたちの様子にもそれぞれ違いが見られるものの、「学び方の指導」を関連させた学習活動後、それぞれの学年では、次のような子どもたちの変化が見られるようになった。

(1) 読書活動の広がり

第1学年では、国語科教材『ほんとなかよし』と関連させた「学び方の指導」を行った。その後、右記の資料3-1で示す四つの大きな変化が見られるようになった。

その一つは、自分の力に合った図書の選択ができるようになったことである。以前は学校図書館へ行っても、図書の表紙絵や挿絵に惹かれ自分では最後まで読み通せない図書を選んだり、眺めて楽しむ図書を借りて見ていたりしていた子どもたちが、「学び方の指導」後、図書の内容を確かめ、最後まで自分の力で読める内容のものを借りるようになってきた。

二つ目に、絵本以外の図書を選択し読むことができるようになってきたことである。

絵本、特にその中でも9分類（文学）の絵本を中心に借りていた子どもたちが、「学び方の指導」の一つとして本探しゲームを行ったことにより、4分類（自然科学）の図書やその他の分類や分野の図書へも興味を示すようになり、またそれらを借りる姿も見られるようになってきた。

三つ目に、簡単な分類を理解し、それを活用して図書の検索や選択また返却などを行うことができるようになってきたことである。

これは本探しゲームを行った際、分類番号にも目が向けられるように意識をもたせたことの結果である。

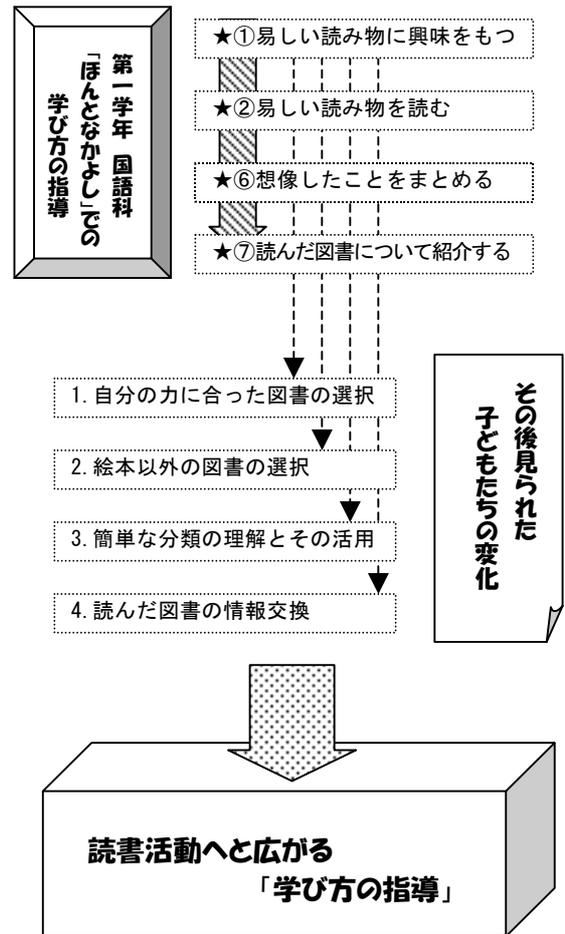
四つ目に、読んだ図書の情報交換が行われるよ

うになってきたことである。

この学級の子どもたちは、指導者の読み聞かせた図書や紹介した図書をたくさん読む傾向があったが、互いに自分の読んだ図書を紹介する学習を通して、以後の読書活動では、子どもたちが図書の情報交換を互に行い読み合う姿が見られるようになった。さらにその後、子どもたちに課せられた読書紹介文を書く課題においては、紹介文だけではなく、書名や著作者名にも目が向けられ、それらを記録できているものも多く見られた。

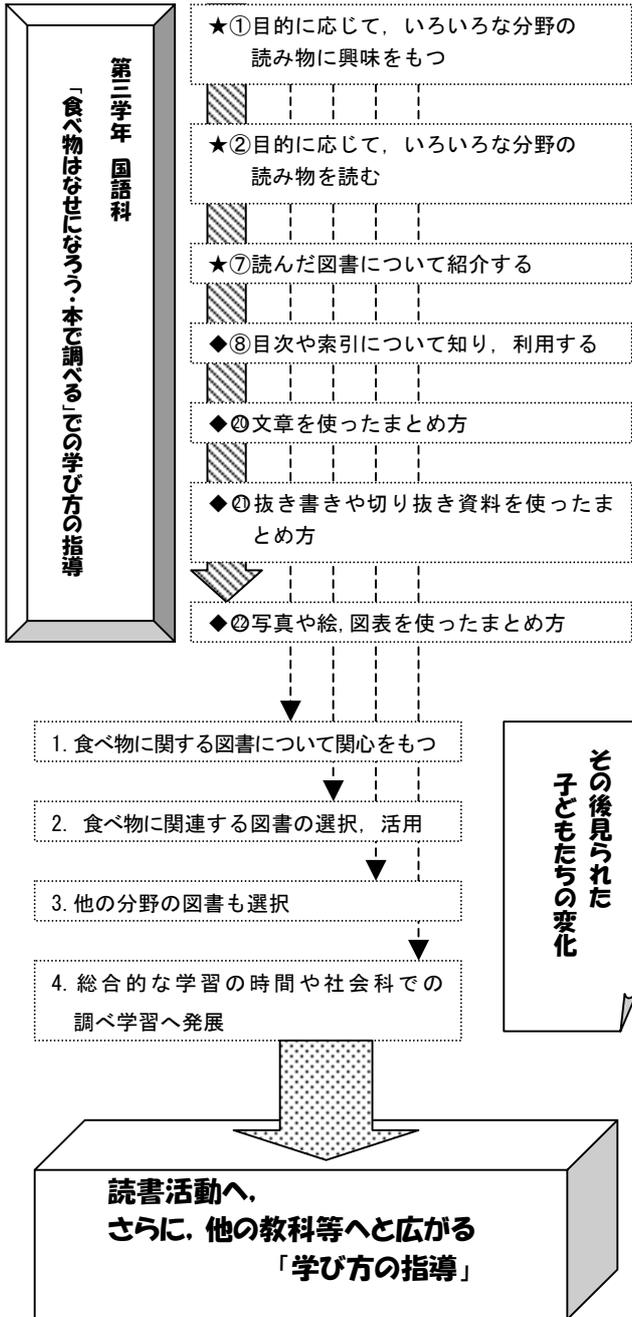
このような子どもたちの姿を通して、国語科と関連させた「学び方の指導」での学びの経験が、子どもたちのメディア活用能力としてはぐまれ、その後の読書活動へ広がっていったと考えられる。

資料3-1 第1学年「学び方の指導」後の変化



第3学年では、国語科教材『食べ物のかせになろう/本で調べる』と関連させた「学び方の指導」を行った。その後、次ページの資料3-2で示す、四つの大きな変化が見られるようになった。

資料 3-2 第 3 学年 「学び方の指導」後の変化



その一つは、食べ物に関する図書に興味をもつようになったことである。

以前には、あまり手にすることのなかった食べ物に関連する図書に興味や関心をもつようになり、さらにそこから料理や買い物といった分野の図書にまでも、目が向けられるようになってきた。また季節や行事の食べ物へと、その図書の分野が広がっていった。

二つ目に、食べ物に関心をもち、関連する図書を選択し活用している姿が見られるようになったことである。

「学び方の指導」の一つとして本探しの活動を

通して、図書の探し方や目次、索引の活用の仕方、必要な情報の探し方について学習したところ、他の学習活動の中で扱う食べ物についても、自ら図書を活用しさらに情報を得ようとしている姿が見られるようになった。

三つ目に、他の分野の図書も選択することができるようになったことである。

「学び方の指導」として本探しの活動時に、図書は仲間分けされており、図書に貼ってある分類番号ごとに、それぞれの書架に同じ分野の図書が入っていることを学習したところ、以後子どもたちは、どの書架を探せば必要な図書が見つかるのかわかるようになってきており、食べ物に関連する図書から波及し、様々な分野の図書を選択し活用している姿が見られるようになってきた。

四つ目に、他の教科等の学習活動において、詳しく調べる必要がある事柄について気軽に図書資料を活用し、調べ学習ができるようになったことである。

このような子どもたちの姿を通して、国語科と関連させた「学び方の指導」での学びの経験が、第3学年においてもメディア活用能力としてはぐくまれ、その後の子どもたちの日常の読書活動へと広がっていったものと考えられる。さらに社会科や総合的な学習の時間など、他の教科等の学びへと活かされることにもなった。

(2) 学習活動への波及

第5学年では、国語科教材『工夫して発信しよう/編集して伝える』と関連させた、「学び方の指導」を行った。すると、次単元として行った本年度の国語科の教科書教材である『伝え方を工夫して発信しよう』の学習活動の中で、次ページの資料3-3で示す、大きく分けて六つの様子が子どもたちに見られるようになった。

その一つは、ニュース作りの方法や手順がわかっているため、時間的にも早く、目的に応じた多くの情報を得ることができるようになり、正確なニュースを伝えることができるようになってきたことである。

二つ目は、ファクシミリの送り方やインタビューの仕方がわかり、活用できるようになったことである。

初めは、ファクシミリの送付状の書き方がわからなかった子どもたちも、「学び方の指導」として送付状の書き方について学ぶことにより、科学センターや動物園など、様々な文化施設等へと送付状をつけた質問状やお願い文を送り、より多くの

情報を得るグループが見受けられた。またインタビューについても、「学び方の指導」として必要に応じて学ぶことにより、目的に合う情報を得るために校区内に取材に出かけて行き、インタビューを行ってくるグループが見られるようになった。

三つ目は、ファイル資料や資料リストを作成したり、作成したものを活用したりできるようになってきたことである。

このファイル資料や資料リストの作り方についても「学び方の指導」の一つとして学習した。初めは情報の出典や出所等を書くのは面倒だと思っていた子どもたちも、前単元の学習が終わるころには情報を絶えず振り返ることができ、便利だったという感想を寄せている。そのため、次単元の学習活動でも活用している姿が見られた。

四つ目は、新聞等の小見出しの書き方がわかるようになってきたことである。

前単元ではなかなかうまく小見出しをつけることができなかつた子どもたちも、回を重ね、何度も書くうちに、次単元ではうまくつけることができるようになってきた。

五つ目は、視聴覚メディアの活用である。

前単元で「学び方の指導」の一つとして、視聴覚メディアを活用した、様々な情報の伝達方法があることを学んだ子どもたちは、OHC(実物投影機)を活用し、必要な情報を大きくテレビに映したり、VTRを活用し、テレビ番組を録画したものをニュースとしてうまく活用したり、BGMを入れたりといろいろな工夫を凝らすことができ、その様子を発表時に見ていた他のグループの子どもたちが、今度は次単元でそれを応用し、さらに工夫を凝らした視聴覚メディアの活用をすることができた。

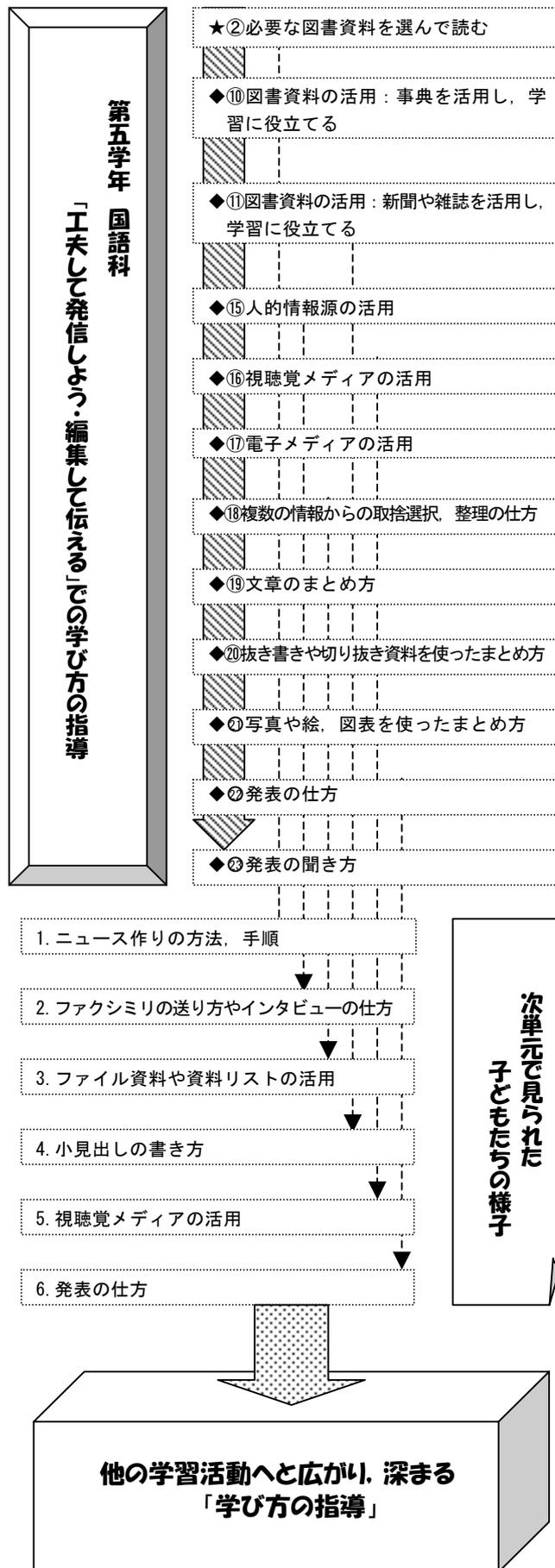
六つ目は、発表の仕方である。

前単元の発表では、下を向いて声が通らなかつたり、ニュース資料がうまく使いこなせなかつたりしていたが、「学び方の指導」として発表の仕方を振り返ることにより、そこでの反省点が、次単元の活動に生かされている様子がうかがえた。

このような子どもたちの姿を通して、国語科と関連させた「学び方の指導」での学びの経験が、第5学年においてもメディア活用能力としてはぐくまれ、その後の学習活動にさらに工夫を加えたものとなって生かされることがわかった。

第5学年では、国語科と関連させた「学び方の指導」を行ってから日が浅く、日常の読書活動や他教科等への広がりについては、十分にとらえることができなかったが、ここでの学びが今後さらに広がっていくことを期待している。

資料3-3 第5学年 「学び方の指導」後の様子



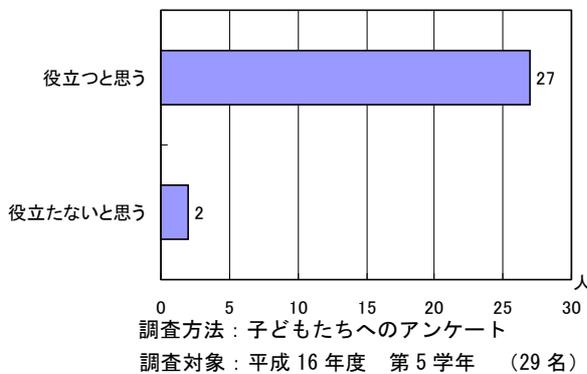
第2節 充実した読書活動に向けて

(1) 他教科へと広げるために

国語科と関連させて「学び方の指導」を行うことで、その後の子どもたちの読書活動や学習活動に、少なからず影響を及ぼしたことを前節で述べた。

下記の図3-1は、ファイル資料や資料リストの作成についての「学び方の指導」を行った際に、子どもたちに「ファイル資料や資料リストの作成は、国語科だけではなく他の教科等の中でも役に立つと思いますか」という質問をした結果である。

図3-1 ファイル資料や資料リストは他の教科等でも役に立つと思うか



第5学年の子どもたちからの回答は、「役に立つと思う」と答えた子どもが、29名中27名、反対に「役に立たないと思う」と答えた子どもが2名であった。

また、これらの回答の理由としては、「役に立つと思う」と答えた子どもは、「調べたことや資料が後で使いやすかったから」、「リストに書いたことを後から見れてよかったから」等、国語科の学習活動の中で、それらを活用し、生かすことができたことをその理由として挙げている子どもが多かった。また反対に「役に立たないと思う」と答えた子どもは、「授業中にあまり使わなかったから」と、集める情報の違いにより活用する場面が無かったことを挙げている。

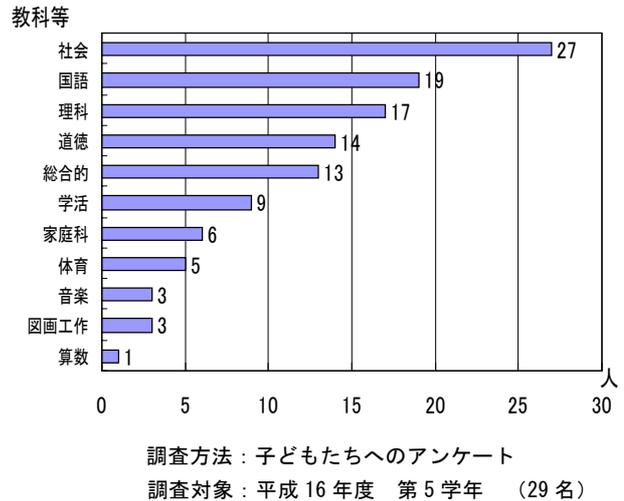
この結果から、「学び方の指導」として学んだ事柄を、学習活動中に十分活用しその使い方や便利さが実感としてわかった子どもたちは、その後の学習活動でも「役に立つ」と考え、活用しようとする意欲をもつことがわかった。

この結果を踏まえ、教科等と関連させて「学び方の指導」を行っていく場合には、その活動が子

どもたちの学習活動に生かされ、使い方が十分に身につく、子どもたちにしっかりと伝わるような場面設定を考えていく必要がある。

下記の図3-2は「ファイル資料や資料リストの作成は、どのような教科等の中で役に立つと思いますか」という質問をした結果である。

図3-2 ファイル資料や資料リストはどのような教科等でも役に立つと思うか



「役に立つ」と答えている人数の違いはあるものの、子どもたちは、11もの教科等で役に立つと考えていることがわかる。

このことから、ファイル資料や資料リストの便利さや有用性を知った子どもたちは、「学び方の指導」により学んだ内容を、他の教科等でも活用でき、役に立つと考えていることがわかった。

これらの結果を踏まえ、国語科と関連させて行った「学び方の指導」が、次時の国語科の学習活動や他の教科等の学びに影響を及ぼし、子どもたちの関心や意欲につながっていることが考えられる。

『小学校学習指導要領解説国語編』では、「指導計画作成上の配慮事項」として「他の教科における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて」(33)国語科の指導を行うように述べられている。

また「情報収集源を広げたり、情報活用の質を高めたりしていくことが必要」であり、「情報を収集する場合には、学校図書館を計画的に利用しながら情報を得ることなども考えられる」とも述べられている。

実際に子どもたちの様子から、国語科と関連させて、計画的に図書館教育の一つとして、「学び方の指導」を行うと、そこでの学びが国語科での学

びを深め、広げることが子どもたちの変化や様子からわかってきた。またそれに留まらず、他の教科等にも生きて働く力として活用されていくことがわかった。

これらのことを踏まえ、国語科に「学び方の指導」を関連させ学習活動を行うことは、他の教科等においても、子どもたちの学びを支えことになり、有効であるということができるとはならないだろう。また、そうするためには、教科等と関連させ、計画的に「学び方の指導」を行っていくことが必要であると考え。

(2) 並行して求められる日々の取組

子どもたちの読書活動を広げ、学校図書館の機能の活用を図る能力を育てていくためには、教科等と関連させ「学び方の指導」を行っていくと同時に、子どもたちを取り巻く読書環境を整え、様々な面から読書活動推進に向けての取組を行っていく必要もある。

本項では、学校においてどのような読書環境を整えていく必要があるのかということについて、子どもたちの実態に基づき述べていく。

まず初めに、子どもたちの読書状況を知るために、読書の実態を調べてみることにした。

その結果、第1学年では、ある一定期間中に子どもたちが借りた図書の書名と、同じ期間に指導者が読み聞かせた図書の書名とを比較した。すると、子どもたちが借りていた図書のうち、指導者が読み聞かせを行った図書の書名と同一のものを借りている割合が、全貸出冊数の64%に上った。

この結果から考えて、子どもたちに図書の読み聞かせを行ったり、図書の紹介を行ったりすることは、子どもたちの読書活動に大きく影響することがわかった。

また第3学年でも、同じ調査を行ったところ、指導者が教科等と関連して紹介した図書が、子どもたちの読んだ図書全体の11%、約60冊にも上ることがわかった。

さらに、子どもたちが読んだ図書の書名を調べていくと、全体の25%の図書は、書名が重なり、多くの子どもたちが同じ書名の図書を読んでいることがわかってきた。また子どもたちがよく読んでいる図書の大半が、教室の学級文庫にある図書だということもわかってきた。これは、第5学年においても、同じ傾向が見られ、読書の記録に残るすべての図書の内、約30%が教室にある学級文庫のものであることがわかった。

このような、第1, 3, 5学年の子どもたちの実態から、以下に示す三つのことが考えられる。

1. どの学年の子どもたちにとっても、指導者の読み聞かせや図書の紹介は、読書への働きかけの一つとなり、その後の読書活動へ大きく影響すること
2. 子どもたちの間で、読んだ図書についての情報交換が行われ、読書活動がすすむこと
3. 朝の読書などの取組がさかんになってきたことを受け、多くの子どもたちが、身近にある学級文庫から図書を選んで読んでいること

このような子どもたちの実態を受け、子どもたちを取り巻く読書環境を整えていくためには、まず、子どもたちが最も利用し、身近な存在でもある学級文庫の充実をはかる必要がある。

学級文庫に揃える図書については、子どもたちの発達段階や興味・関心、また学習との関連などを考え、適切なものを常に準備していくことが大切である。また準備した図書や各教科等の学習内容に合わせ、読み聞かせをしたり、図書の紹介をしたりすることも、子どもたちの読書活動を推進していくためには必要な取組であると考え。

さらに、子どもたちが互いに読んだ図書について情報交換し、その情報をもとに読む図書を選択していることが多いことから考えると、教科等の学習活動と関連づけ、様々な機会に子どもたちによる読書紹介の機会を設けることも有効な手段の一つであるといえる。

次に、より多くの図書との出会いの機会を設け、子どもたちの読書環境を整えるためには、やはり学校図書館の利用は欠かせない。

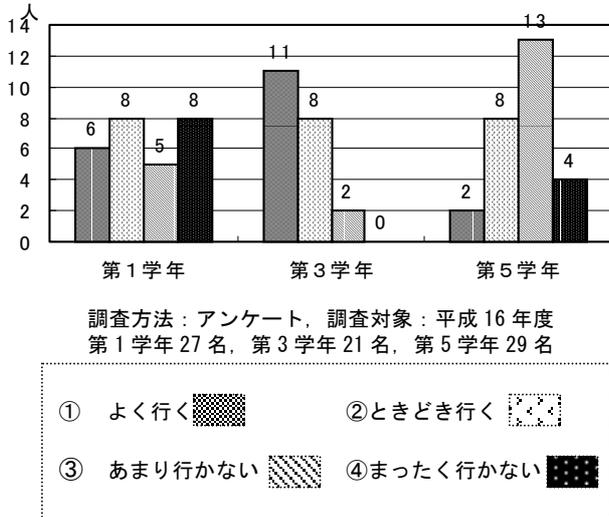
そこで子どもたちが学習活動以外に学校図書館をどのくらい利用しているのか、アンケートを取って調べてみた。

次ページの図3-3は、その結果を示したものである。第1学年では、7月にアンケート調査を行ったため、休み時間や放課後に学校図書館に行く子どもは少ない。しかし、自由に行ってもよいことになっていたため、クラスの約4分の1の子どもたちが、図書館をよく利用していくことがわかる。

第3学年では、よく行く子どもがクラスの半数に上る。また逆にまったく行かないという子どもはいない。この学校では、休み時間や放課後には保護者ボランティアの方が来られている。

このことが、子どもたちの来館を促進しているといえるかもしれない。

図 3-3
休み時間や放課後などに学校図書館へ行きますか



第5学年では、「よく行く」「ときどき行く」と答えている子どもに比べ、「あまり行かない」「まったく行かない」と答えている子どもの数が増えている。高学年になると、放課後などに十分な時間が取れないことや活動の幅が広がることなどが、減少の理由として考えられる。これらの結果から考え、学習活動の場としての学校図書館の利用から発展し、休み時間や放課後なども、子どもたちが図書を読みたい時、また図書資料を使って何かについて調べたいと思った時に、いつでも学校図書館を利用できる環境を作ったり、読書活動への働きかけを行ったりすることが、学年が進むほどより大切になってくると考える。

5月に本市小学校の学校図書館にかかわる分掌の教職員（司書教諭、図書主任等）約30名に尋ねたところ、他の分掌や担任との兼務など、様々な条件のもとでなかなか図書館の整備までは手が回らないという回答が多く寄せられた。

また、司書教諭に任命されていても、活動時間の位置づけがされておらず、各学年の学習活動にかかわる時間的な余裕がないというのが現状のようである。しかし、子どもたちの読書活動を推進していくためには、学校図書館にかかわっている教職員のみならず、学校全体として、それぞれの子どもたちの実情に応じた読書環境を整える体制をとっていくことが大切ではないだろうか。

(33) 文部省『学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社
1999.5 p.135

おわりに

現在、学校図書館の読書センター、学習・情報センターとしての機能の活用が求められており、本研究においても、子どもたち自らが学校図書館の機能を活用することができるようにするためには、メディア活用能力を育てていくことが大切であると考えた。そこで図書館教育の指導内容と、それにかかわりの深い国語科の指導内容を手がかりにして、小学校における『メディア活用能力を育てる学び方の指導』の指導内容を明らかにし、国語科と関連させた「学び方の指導」を試みてきた。これらの学習活動を通して、子どもたちは新しい分野の図書と出会い、図書資料の探し方や活用の仕方を身につけることができ、以後の学習活動や子どもたちの読書活動に大きく影響することがわかってきた。また、さらに子どもたちの読書活動を推進し、広げ、深めていくためには、多くの図書との出会いの場を設定し、読書活動への働きかけを行うことが不可欠である。この点においても、今回の国語科に関連させた「学び方の指導」を試みは、学習活動と関連した図書と出会う場となり、合わせて読書活動への働きかけや図書資料を活用する取組を行ったことにより、以後の読書活動へも広がりを見せたと考えられる。

子どもたちの読書活動は、子どもたちが置かれている読書環境に左右されるところが大きい。多くの子どもたちが、“読書が好き”、“調べるっておもしろい”と感じてくれることを切に願い、今後も子どもたちの読書活動の推進に向けて取り組んでいきたいと考える。また、子どもたちのその時々状況に合わせ、より身近に感じられる図書を手渡していくために、指導者自らもさらなる図書との出会いを心がけていきたいものである。

最後に付表として、小学校低学年、中学年、高学年の『メディア活用能力を育てる学び方の指導』内容一覧表と、これに基づいて作成した、小学校第1学年、第3学年、第5学年の読書活動計画を付した。（なお、CD-ROM版には、第2学年、第4学年、第6学年の読書活動計画も付している）これらを一つの例として受け止めていただき、それぞれの学校の実情や子どもたちの実態に合わせて、独自の年間計画を作成する手がかりとして活用していただけたら幸いである。

本研究は、明德小学校、花園小学校、宇多野小学校の研究協力員のみなさんとの共同作業の結果であることを伝え、この場を借りて感謝の意を表したい。

【付 表】(1) 低学年の『メディア活用能力を育てる学び方の指導』内容一覧表

低	〈読書センターとしての機能を活用する能力を育てる学び方の指導目標〉 ★楽しんで読書をする				〈学習・情報センターとしての機能を活用する能力を育てる学び方の指導目標〉 ◆楽しんで表現する			
	No	主題名	ねらい	学習内容	No	主題名	ねらい	学習内容
I 情報の収集	①	◎易しい読み物に興味をもつ	・易しい読み物に興味をもち、図書を選択する	・図書館には、いろいろな図書があることを知る ・4分類、9分類(絵本)の図書を知る ・易しい読み物に興味をもち、読みたい、または読んでほしい図書を選択する(日本の昔話、世界の昔話、春の話、動物の出てくる話、物作りに関する図書)	⑧	◎学校図書館の利用 ・学校図書館のきまり	・図書の扱い方を知る ・図書を読む時の場所、姿勢、明るさ等を考える	・図書の取り出し方、戻し方を知る ・ページのめくり方を知る ・読む場所やその場の明るさを考える ・読む姿勢を考える
II 情報の活用	②	◎易しい読み物を読む(聞く)	・易しい読み物に興味をもち、読んだり、読んでもらったりする	・いろいろな読み方、読んでもらい方を知り、易しい読み物を楽しむ(自分で読む、友だちと読む、先生に読んでもらう、家族に読んでもらう)	⑩	◎図書資料の使い方 ・図鑑等の使い方	・図鑑等の図書資料を知り、活用する	・動物やその他の生き物、自動車の絵本や図鑑を探して、写真を見たり、文章を読んだりする
	③	◎内容の大体を読む(聞く)	・易しい読み物の内容の大体がわかる	・話の筋筋をとらえる ・順序を表す言葉や主語、述語に気をつけて読む	⑪	◎実物や掲示・展示資料等の使い方	・課題に応じた情報を集める ・体験したことや感想を書く	・必要な写真や資料を集める ・したこと、見たこと、話したこと、聞いたことを書く(形・大きさ、色、声・音、感触) ・気づいたことや思ったことを書く
	④	◎想像を広げながら読む(聞く)	・想像を広げながら、易しい読み物を読む	・出来事や様子を思い浮かべて読む	⑫	◎人的情報源の利用	・身近な人から必要な情報を得る	・身近な人に知りたいことを尋ねる
III 情報の選択	⑤	◎順序を考えてまとめる	・順序を考えて書く	・順序を考えて、話の筋筋を絵や文章でまとめる ・読書の記録を書く(読んだ日、書名、著作者名、登場人物、出来事、知らせたいこと、考えたこと)	⑬	◎情報の整理の仕方	・集めた情報の中から、必要な情報を選択する	・書きたい事柄、使いたい絵や写真等、必要な情報を選択する
	⑥	◎想像したことをまとめる	・想像したことを書く	・話の内容から想像したことを絵や文章でまとめる ・読書の記録を書く(読んだ日、書名、著作者名、登場人物、出来事、知らせたいこと、考えたこと)	⑭	◎文章や絵を使ったまとめ方	・内容の順序を考え、主語・述語がわかるように書く ・句読点やかぎを正しく使う	・主語・述語がわかるように書く ・句読点やかぎを正しく使う ・内容と順序を考えて書く
					⑮	◎抜き書きの仕方	・必要な情報を抜き書きしたり、書き写したりする	・好きな場面の絵や文章、登場人物のしたことをかき写す
IV 情報の伝達	⑦	◎読んだ図書について紹介する	・いろいろな紹介方法を知る ・いろいろな方法で図書の紹介をする	・登場人物の動きを考えて劇をする ・好きなところを音読する ・なぞなぞやクイズをつくる ・紙芝居をつくる ・まとめたり、作ったりしたものを展示、掲示する	⑯	◎発表の仕方	・声の大きさや速さに気をつけて、順序を考えて話す ・聞き手を見ながら話す	・主語・述語がわかるように話す ・順序を考えながら話す ・声の大きさに気をつけて、ゆっくり・はっきり話す ・聞く人を見て話す
					⑰	◎発表の聞き方	・大事なことを落とさないように、話し手を見ながら聞く ・わからないことは質問する	・わからないことは聞き返す ・大事なことを落とさないように聞く ・話す人を見て聞く

【付 表】(2) 第1学年 読書活動計画例

メディア活用能力を育てる学び方の指導		第学期	国語 (光村図書)	算数 (啓林館)	生活 (東京書籍)	音楽 (教育芸術社)	図画工作 (日本文教出版)	体育	道徳	読書環境
読C	★楽しんで読書する	4月	② ★おはなしよんで ◆たんけんしたよみかた	・オリエンテーション (数へのいざない、 集合数の意識づけ)		・うたでともだきをつくろう (ぞうさんのさんぽ)				・動物が登場する絵本 ・日本、世界の昔話
I①	易しい読み物に興味をもつ	5月	③④ ★はなのみち		⑫ ◆がっこうをたんけんしよう ⑬⑭ ◆みつめたことをおしえあおう ⑩ ◆たねまきをしよう				・おはよう	・あいさつに関する図書 ・種に関する図書
II②	易しい読み物を読む(聞く)	6月								
II③	内容の大体を読む	7月	② ★おむすびころりん ⑫ ★ほんとなかよし ⑬⑭ ↓		⑩ ◆くさばなであそぼう	②④ ★ものがたりとおんがく (おむすびころりん)			・お田うえじぞう	・日本の民話
II④	想像を広げながら読む	9月	⑬⑭ ◆みんなこしらせいせき ⑫⑬⑭ ★大きなから ⑩⑭ ◆じどう車くらべ		⑩ ◆どうぶつをみせいせき ⑩ ◆いきものをさがそう	・いいおとをみつけてあそぼう (ばすばすはしる)			・ソリちゃんとチュソク ・みんなののりもの	・動物、生き物に関する図書 ・世界の民話 ・乗り物に関する図書
III⑤	順序を考えてまとめる	10月	⑫⑬⑭ ★くじらぐも		⑬⑭⑯ ◆あきをさがしにいこう ⑩ ◆つくってあそぼう	・いいおとをみつけてあそぼう (おちば)	・おもしろいかたちいっぱい はっぱのへんしん			・秋に関する図書 ・中川李枝子の著書 ・雲に関する絵本
III⑥	想像したことをまとめる	11月	⑪ ◆しらせたいなみせたいな ⑤⑥ ★ずっと、ずっと、大ききだよ ⑬⑭ ◆ "				④ ★みて、みて、おはなし		・ゆっきとやっち	・ハンス=ウィルヘルムの著書
IV⑦	読んだ本について紹介する	12月			⑬⑭⑯ ◆たのしかったことをおしえあおう ⑩ ◆ふゆをさがそう	④ ★ようすをおもいうかべよう はる なつ あき ふゆ	・たのしいな すごいな			・冬に関する図書
精C	◆楽しんで表現する	1月	おみせやさんごっこをしよう		⑬⑭⑯ ◆ふゆをさがそう					
I⑧	学校図書館のきまり	2月	⑬⑭⑯ ◆わたしはなんでしょう ◆どうぶつのおちゃん		⑩ ◆つくってあそぼう		・ニョキニョキ コロコロ			・おもちゃの作り方に関する図書 ・動物に関する図書
I⑨	学級文庫のきまり	3月	①②③ ★たぬきの糸車 ④⑤ ◆ " ⑥⑦ ⑮⑯⑰		⑩⑪⑫ ◆これまでのことをおしえよう ⑭⑯ ⑰		・ウキウキ ドキドキ			・日本の民話

【付 表】(3) 中学年の『メディア活用能力を育てる学び方の指導』内容一覧表

中	〈読書センターとしての機能を活用する能力を育てる学び方の指導目標〉 ★ 幅広く読書をする				〈学習・情報センターとしての機能を活用する能力を育てる学び方の指導目標〉 ◆ 適切に表現する			
	No	主題名	ねらい	学習内容	No	主題名	ねらい	学習内容
I 情報の収集	①	◎目的に応じて、いろいろな分野の読み物に興味をもつ	・いろいろな分野の図書に興味をもち、目的に応じて図書を選択することができる ・読んだ内容等に関連した他の図書に興味をもつ	・図書館にはいろいろな分野の図書があり、内容や種類によって分けられていることを知る ・図書の分け方(分類)を知る ・同じ著者が書いた図書やシリーズになった図書に興味をもち、目的に応じて選択する	⑧	◎学校図書館の利用 ・図書のつくり	・図書のつくりと正しい扱い方を知る ・目次や索引について知り、利用する	・図書のつくりと各部の名称を知る(表紙、裏表紙、背表紙、目次、索引、あとがき、奥付等) ・索引は、五十音順になっていることを知る ・目次や索引を見れば、調べたい事柄の書かれているページがわかることを知り、それを利用して知りたい情報を得る
					⑨	◎公共図書館の利用	・公共図書館の利用方法を知り、利用する	・公共図書館のきまりや使い方について知り、必要に応じて利用する
II 情報の活用	②	◎目的に応じて、いろいろな分野の図書を読む	・いろいろな分野の図書に興味をもち、読む ・読んだ内容に関連した他の図書を読む	・同じ著作者や同じテーマ、シリーズになったものなど、いろいろな図書に興味をもち読む ・読書の量的な向上と読書の分野を広げる	⑩	◎図書資料の使い方	・図鑑や事典等の特徴や使い方を知り、利用する	・事典は主に言葉、図鑑は主に絵や写真で説明してあることを知り、目的に応じて利用する
					⑪		・新聞や雑誌、パンフレット等の特徴を知り、利用する	・新聞や雑誌、パンフレットの特徴を知り、目的に応じて集めたり、利用したりする
					⑫		・国語辞典や漢字辞典の仕組みや使い方を知り、利用する	・言葉の意味や漢字の書き方がわからないときに役立つことを知り、目的に応じて利用する ・言い切りの言葉で、五十音順に書かれていることを知る
					⑬		・地図の特徴や見方を知り、利用する	・いろいろな地図があることを知る ・地図の特徴や見方を知り、目的に応じて利用する
					⑭		・写真や図等の特徴や見方を知り、利用する	・写真や図の特徴や見方を知り、目的に応じて集めたり、利用したりする
					⑮		・表やグラフ等の特徴や見方を知り、利用する	・表やグラフの特徴や見方を知り、目的に応じて利用する
	③	◎目的に応じて文章を正しく読む	・中心となる語や文をとらえる	・段落の中で、一番大事な文、中心となる文を見つける ・繰り返し出てくる言葉、題名とつながりのある言葉に気をつけて読む	⑯	◎実物や掲示・展示資料等の使い方	・目的に応じて情報を集める ・見学や体験したことの感想を書く	・観察したり、調べたりしたことをわかりやすくメモする ・絵等を描いて詳しく書く ・調べたり観察したりした日づけを記録する ・箇条書きの仕方を知る ・気づいたことや思ったこと、驚いたこと等を書く
	④	◎叙述をもとに想像しながら読む	・場面の移り変わりや人物の様子を想像しながら読む	・誰が、いつ、何をしたのか、話の筋を想像しながら読む	⑰	◎人的情報源の利用	・身近な人から必要な情報を得る	・インタビューの仕方やアンケートのとり方を知り、それらを利用して目的に応じて知りたい情報を得る ・大事なことを確かめながら聞き、短い言葉でメモを取る
					⑱	◎視聴覚メディアの利用	・視聴覚メディアの使い方を知り、利用する	・カメラ、デジタルカメラ、ビデオカメラ、テープレコーダー等の使い方を知り、目的に応じて利用する
					⑲	◎電子メディアの利用	・コンピュータの使い方を知り、利用する	・ローマ字入力の仕方を知り、目的に応じて利用する
III 情報の選択	⑤	◎話の中心を明確にまとめる	・目的に応じて話の中心を明確にまとめる	・目的に応じて内容を大きくまとめたり、細かい点に注意したりして書く	⑳	◎情報の取捨選択、整理の仕方	・集めた情報の中から必要な情報を選択する	・メモをもとに情報を整理して、文章にまとめる ・事柄ごとにまとめ、段落に分けて書く ・難しい言葉は書き換えたり、説明をつけたりする ・目的に応じて、必要な絵や写真、図を選択する
					㉑	◎文章のまとめ方	・内容を大きなまとまりに分けて書く ・要点をまとめて文章を書く	・はじめ、中、終わりとして文章を大きなまとまりに分け、組立て方を工夫して書く ・要点のまとめ方がわかり、できるだけ短く、わかりやすく文章を書く
	⑥	◎叙述をもとに想像したことをまとめる	・読み取った内容から想像したことを書く	・心に残った言葉や文章から、思ったことや考えたこと、知らせたいこと等を書く	㉒	◎抜き書きや切り抜き資料を使ったまとめ方	・必要な情報の抜き書きや切り抜きを利用してまとめる	・目的に応じて、必要な情報を抜き書きしたり、切り抜いたりして利用する ・情報の出典を明らかにする(書名、著作者名、出版社名、出版年)
					㉓	◎写真や絵、図表を使ったまとめ方	・写真や絵、図表の使い方を知り、それらを利用してまとめる	・写真や絵、図表を使う効果を知り、目的に応じて利用する
IV 情報の伝達	⑦	◎読んだ図書について紹介する	・いろいろな紹介方法を知る ・いろいろな方法で図書の紹介をする	・言葉のリズムを楽しみながら、内容がよくわかるように工夫して音読する ・クイズで図書の紹介をする(アニメーション) ・伝えたい場面を紙芝居にして、図書の紹介をする ・絵本や新聞、ポスターを作り、展示、掲示して図書の紹介をする	㉔	◎発表の仕方	・聞き手ばかりやすいように、組み立てを考えて話す	・話したいことをメモに書き、組み立てを考えて順序よく話す ・声の大きさや速さに気をつけて話す ・大事な事柄を短い言葉で話す
					㉕	◎発表の聞き方	・話のまとまりや順序に気をつけて、大事なことを落とさないように聞く ・わからないところは質問する	・話のまとまりや順序に気をつけて、大事なことを落とさないように、できるだけ短い言葉でメモに取りながら聞く(大事な言葉、名前、数字、地名等は正確に書く) ・わからないところや聞き漏らしたところは質問して確かめる

【付 表】(4) 第3学年 読書活動計画例

メディア活用能力を育てる学び方の指導		第3学年	国語 (光村図書)	算数 (啓林館)	理科 (大日本図書)	社会 (東京書籍)	音楽 (教育芸術社)	図画工作 (日本文教出版)	体育・保健 (学研)	道徳	特活・総合	読書環境
読C	★幅広く読書をする	4月	④⑦ ★きつつきの商売 ◆きつつきの商売		・しぜんたんけん	⑧ ◆わたしたちのまちみんなのまち 1, 学校のまわり ・絵地図にまとめる	・こころのうた 春の小川 茶つみ (主な茶の産地)	・きせつの中で			① ② ③ ④ ⑤	・植物や昆虫に関する図書 ・校区図 ・林原玉枝の著書
I ①	目的に応じて、いろいろな分野の読み物に興味をもつ	5月	③ ★ありの行列 ◆国語辞典を使う ①② ★わたしたしと小鳥とすずと ④⑬ ◆おもしろいもの、見つけた		◆植物の育ち方(1) ◆チョウをそだてよう			・心キラリ 見たことや かんじたことから (絵おき)		・ほたるの川	⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	・植物や昆虫に関する図書 ・国語辞典 ・金子みすゞの詩集 ・いろいろな詩集
II ②	目的に応じて、いろいろな分野の読み物を読む	6月	⑬⑭ ◆道あんないをしよう		◆植物の育ち方(2) ◆こん虫をしらべよう	2, 市のようす				・動くはく物かん (時代祭り) ・高ぜりはえい遠こ	⑪ ⑫ ⑬	・植物や昆虫に関する図書 ・京都市に関する図書、パンフレット等
II ③	目的に応じて文章を正しく読む	7月	⑬⑭ ★三年とうけ ★本はおどろきのさかし		◆植物の育ち方(3) ★ぼく・わたしのじゆうけんきゅう ◆ "	・わたしたちのまちのしせつ		・きょうかしよ びじゅつかん 絵本がらっぱい		・わらってごめん ・マダン	⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱	・いろいろな国の民話 ・韓国、朝鮮に関する図書
II ④	叙述をもとに想像しながら読む	9月	④ ★キリン ◆「分類」ということ ◆インタビュー		◆植物の育ち方(4) ◆太陽のうごきをしらべよう	◆人々のことばをのこら スーパーマーケットで遊ぶ (コンビニエンスストア)				・わたしの花	⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔	・まど・みちおの詩集 ・いろいろな詩集 ・植物や昆虫に関する図書 ・仕事や暮らしに関する図書
III ⑤	話の中心を明確にまとめる	10月	④⑥ ★ちいちゃんのかげおくり	⑮ ◆長い長さ lmをこえる長さ km	◆動物のさがしをしらべよう					→ 明かりが見えた →	㉕	・戦争に関する図書 ・太陽や光に関する図書
III ⑥	叙述をもとに想像したことをまとめる	11月	③⑤ ★すかたをかえる大豆 ◆食べ物かせごなろう ◆本で調べる		◆豆電車あかりをつけよう	2, 農家のしごと	・様子を思い浮かべながら ・そのときの気持ちを大切に ・エルマーのぼうはん				㉖ ㉗ ㉘	・食べ物に関する図書 ・農業に関する図書資料 ・冒険物語
IV ⑦	読んだ図書について紹介する	12月	⑩⑬⑰ ◆せつめい書を作ろう	⑮ ◆表とグラフ 資料の分類、整理		(工場のしごと) ・もうどう犬をそだてるしごと	・歌がかきのおびきを ききましょう ヘゼルとグレーテルから 「人でおどきましょう」				㉙ ㉚	・工業に関する図書
学精C	◆適切に表現する	1月			◆しゃのふしをしらべよう	◆くらしをまもる 1, 火事が起きたら		・みんなでつくろう! ゆめの町	・毎日の生活と健康 図書を読む時の 明るさ		㉛ ㉜	・磁石に関する図書 ・公共施設に関する図書
I ⑧	学校図書館の利用	2月	⑬⑭⑱ ★モチモチの木		◆おもちやショをひらこう 紹介、説明	2, じけんやじこが起きたら	② ④ ・物語と音楽 かきじぞう				㉝ ㉞	・斉藤隆介の著書 ・日本の民話 ・おもちゃに関する図書
I ⑨	公共図書館の利用	3月	⑭⑱ ◆モチモチの木			3, 安心してらせるまちに ・地しんにそなえて					㉟	・災害に関する図書
II ⑩	図書資料の使い方 図鑑、事典等											
II ⑪	図書資料の使い方 新聞、雑誌等											
II ⑫	図書資料の使い方 国語辞典、漢字辞典											
II ⑬	図書資料の使い方 地図等											
II ⑭	図書資料の使い方 写真、図等											
II ⑮	図書資料の使い方 表、グラフ等											
II ⑯	実物・掲示・展示 資料等の使い方											
II ⑰	人的情報源の利用											
II ⑱	視聴覚メディアの利用											
II ⑳	電子メディアの利用											
III ㉑	情報の取捨選択、 整理の仕方											
III ㉒	文章のまとめ方 抜き書き、切り抜き 資料を使ったまとめ方											
III ㉓	写真や絵、図表を使った まとめ方											
IV ㉔	発表の仕方											
IV ㉕	発表の聞き方											

【付 表】(5) 高学年の『メディア活用能力を育てる学び方の指導』内容一覧表

高	〈読書センターとしての機能を活用する能力を育てる学び方の指導目標〉 ★読書を通して考えを広げたり深めたりする				〈学習・情報センターとしての機能を活用する能力を育てる学び方の指導目標〉 ◆効果的に表現する			
	No	主題名	ねらい	学習内容	No	主題名	ねらい	学習内容
I 情報の収集	①	◎必要な図書資料を選択する	・目的にあった図書を主体的に選択する	・図書を選択するための様々な方法を知り、それを活用して主体的に図書を選択する (読書案内やリスト、インターネット、司書や司書教諭に相談等)	⑧	◎学校図書館の利用 ・学校図書館のはたらきとその利用	・学習・情報センターとしての学校図書館の役割を理解し、活用する	・日本十進分類法(NDC)や請求番号について理解し、目的に応じて活用する
					⑨	◎各種文化施設の利用 ・各種文化施設のはたらきとその利用	・各種文化施設のはたらきを知り、活用する	・各種文化施設の種類の受けられるサービスについて知り、目的に応じて活用する ・各種文化施設の利用方法や利用するときのマナーについて知る
II 情報の活用	②	◎必要な図書資料を選択して読む	・情報を得るために必要な図書資料を選択して読む	・読み深めるために、テーマを決めたり、図書の種類を決めたりして読む	⑩	◎図書資料の使い方	・事典等を活用し、学習に役立てる	・様々な事典があることやその仕組みについて知り、目的に応じて選択し活用する
					⑪		・新聞、雑誌等を活用し、学習に役立てる	・新聞や雑誌の特徴を知り、目的に応じて活用する ・新聞から記事を選び、自分の意見や感想を加える
	③	◎文章の要旨をとらえて読む	・要旨をとらえ、内容的に正確に押さえながら読む	・文章の仕組みを考えながら要旨をとらえ、筆者の述べたことを中心に読み取る	⑫		・国語辞典、漢字辞典を活用し、学習に役立てる	・国語辞典や漢字辞典を目的に応じて活用する
					⑬		・統計、年鑑等の特徴や使い方を知り、活用する	・統計、年鑑の特徴や使い方について理解し、必要に応じて活用する
	④	◎叙述を味わいながら読む	・人物の心情を叙述と関連づけ、表現のよさや効果等を感じながら読む	・場面の様子や人物の行動、心情等に注目し、登場人物の気持ちの変化や行動のおもしろさを読み取り味わう	⑭	◎実物や掲示・展示資料等の使い方	・目的に合わせて見学や体験をし、得た情報や知識を活用する	・記録文の書き方を知り、事前調べたことや見学、体験したことをまとめる ・目的に合わせて見学や体験をし、必要な情報を集めて活用する
					⑮	◎人的情報源の活用	・様々な人から、必要に応じて情報を得る	・尋ねる目的をはっきりさせ、聞きたいことを事前に整理して、インタビューやアンケート調査をする ・依頼文やお礼文の書き方、電話のかけ方、ファクシミリの出し方を知り、目的に応じて活用する ・敬語の使い方に慣れる
⑯	◎視聴覚メディアの活用	・視聴覚メディアを活用し、学習に役立てる	・校内放送やビデオ撮影など、映像や音声の取り入れ方を知り、目的に応じて活用する ・ビデオテープやカセットテープ等には、撮影日、場所、内容を記録する					
⑰	◎電子メディアの活用	・電子メディアを活用し、学習に役立てる	・インターネットや電子メールのよさや特徴、問題点、効果的な利用法を知り、目的に応じて活用する					
III 情報の選択	⑤	◎目的や意図に応じてまとめる	・目的や意図に応じて自分の考えを効果的にまとめる	・読み取った内容を、目的や意図に応じて整理し、自分の意見を効果的にまとめる ・読書の記録を書く テーマ、日付、書名、著作者、分類記号、出版者名、自分の考えを書き、テーマごとに整理してまとめる	⑱	◎複数の情報からの取捨選択、整理の仕方	・様々な情報の整理の仕方を知る	・ファイル資料や切り抜き資料、記録カード等を作成したり、集めた資料の一覧表(資料リスト)を作成したりして、情報を整理する (ファイル資料・・・パンフレット等の資料を分類してファイリングしたもの、切り抜き資料・・・新聞や雑誌等の記事を切り取って台紙に貼り、テーマごとにまとめたもの) ・情報モラルの観点から、情報の出典を明らかにする必要があることを知る
							・一つの事柄について、複数の情報を集め、必要に応じて選択し、活用する	・伝えたいことを中心に考えて、集めた情報の中から使うものを選択し、わかりやすさや重要度等を考えて整理する ・目的に合わせて編集(情報を選択、配列、加工)する
	⑥	◎叙述から味わったことをまとめる	・叙述から人物の心情を感じながら読み、自分の考えや思いを効果的にまとめる	・登場人物の言動、ストーリーの展開のおもしろさ、印象の強い場面、テーマについて考えさせられたこと等を効果的にまとめる ・読書の記録を書く テーマ、日付、書名、著作者、分類記号、出版者名、自分の考えを書き、テーマごとに整理してまとめる	⑲	◎文章のまとめ方	・組み立て方や表現を工夫して文章を書く	・目的に合わせて、書き出しや展開を工夫して文章を書く ・レポートの書き方を知り、目的に応じて活用する
⑳					◎抜き書きや切り抜き資料を使ったまとめ方	・必要な情報を抜き書きしたり、切り抜いたりして活用する	・切り抜き資料や抜き書き資料を活用し、自分の意見や考え、感想をまとめる ・文章や資料を抜き書きしたり、切り抜き資料を活用したりする場合には、情報モラルの観点から、その出典(日付、書名、著作者名、出版社名、発行日)を明らかにする必要があることを知る	
⑳	◎写真や絵、図表等を使ったまとめ方			㉑		・写真や絵、図表等を活用し、学習に役立てる	・写真や絵、図表を手がかりに、話したいことや書きたいことを自分の意見や感想を添えてまとめる ・テーマにそって必要な写真を撮ったり、絵や図表等を描いたりしたものに、意見や感想を添え、ファイル資料を作成する	
				㉒	◎発表の仕方	・効果的な伝え方を工夫して発表する	・話の組み立てを考え、効果的な伝え方を工夫する ・話題をはっきりさせて話す(事実、一番伝えたいこと、自分の考え) ・スピーチメモを書き、スピーチの目的をはっきりさせる	
IV 情報の伝達	⑦	◎読んだ図書について紹介する	・図書やその内容を、様々な方法で工夫して紹介する	・同じ著作者の作品について考えたことや複数の文章を読み比べてわかったこと、ある図書から得たテーマについて関連した図書資料によって調べたこと等を紹介する ・本のカバー、新聞、パンフレット、カルタ、紙芝居、ポスター、アニメーション(クイズ)等の方法で紹介する ・読書発表会、朗読発表会をする	㉓	◎発表の聞き方	・自分の意見と比較しながら聞く	・話し手の意図を考えながら聞いたり、自分の意見と比べながら聞いたりする ・聞いた内容にそって自分の考えを話したり、疑問に思ったことについて質問したりする

【付 表】(6) 第5学年 読書活動計画例

メディア活用能力を育てる 学び方の指導	郵便	国語 (光村図書)		算数 (啓林館)		理科 (大日本図書)		社会 (東京書籍)		音楽 (教育芸術社)		図画工作 (日本放送)		体育・保健 (学研)		家庭科 (東京書籍)		道徳		特活・総合	読書環境	
		④⑥ ⑫ ⑮	★新しい友達 ◆漢字の成り立ち ◆お嬢のお手紙 お礼のお手紙	⑬ ◆小数 ・小数の表し方 ・数のしくみ	⑬⑯	◆命のつくり①	⑧ ◆わたしたちの生活と食生活 1.米づくりのさかんな中野								⑭⑯ ◆見つけよう!家庭生活 1.家庭の仕事を見よう							
I ① 必要な図書資料を選択する	5月	③ ①②④	★サラソウとトラマルメウサギ ★晴間/海雀/雪		⑧⑨ ⑩⑪ ⑭⑯	◆天気と情報 (1)	⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭	2.水産業のさかんな秋田市 (さまざまな食料生産)						⑧⑨ ⑭⑯ ⑰	2.できる仕事をふやそう					④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	・文語調の詩集 ・いろいろな詩集	
II ② 必要な図書資料を選択して読む	6月	⑧⑩⑫⑬⑮⑯ ⑳	◆言葉の研究レポート ◆インタビュー名人なぞ ★千年の針いどむ		⑬⑯ ⑰⑱ ⑳	◆命のつくり②	⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑳	3.これからの食生活とわたしたち	・アジアのいろいろな国の音楽をききましょう インターネット				◆けがの防止 コンピュータの活用 ポスター, 標語等	⑧⑨ ⑭⑯ ⑰	3.くふうして仕事をしよう 自由研究					⑨ ⑩ ⑪ ⑫	・体に関する図書	
II ③ 文章の要旨をとらえて読む	7月	①②③④⑤⑥ ⑦	◆本は友達		⑧⑨ ⑩⑪ ⑭⑯ ⑰⑱	◆命のつくり③	⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑳	◆わたしたちの生活と食生活 3.これからの日本の農業について考えよう						⑭⑯ ⑰	◆料理が楽しいね!おもしろ 1.1日の食事を調べよう					⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑳	・いろいろな分野の読み物	
II ④ 叙述を味わいながら読む	9月	④⑥ ⑫	◆未確認飛行物体 ◆カンジエ博士の暗号解読		⑬⑯	◆命のつくり④	⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑳	◆わたしたちの生活と工業生産 1.自動車をつくる工業 地域と結びさまざまな工業						⑧⑨ ⑭⑯ ⑰	2.簡単な調理をしよう					⑱ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓	・料理に関する図書 ・工業に関する図書	
III ⑤ 目的や意図に応じて読む	10月	①② ⑧⑨⑩⑪⑬⑮ ⑯⑰⑱⑲⑳ ㉑ ㉒ ㉓	◆人「もの」とのつき合い ◆ " " ◆和語・漢語・外来語		⑧⑨ ⑩⑪ ⑭⑯ ⑰⑱ ⑳	◆天気と情報 (2) ◆流れる水のはたらき	⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑳	2.工業生産と工業地帯 3.工業生産と貿易						⑧⑨ ⑭⑯ ⑰	3.なぜ食べるのか考えよう ◆ぬって!使って!楽しい生活 1.くらしの中の布製品を探そう							・和語, 漢語, 外来語に関する図書 ・気象に関する図書 ・川に関する図書 ・災害(洪水)に関する図書 ・布製品, 手芸に関する図書
III ⑥ 叙述から味わったことをまとめる	11月	④⑥ ⑫ ③⑤ ⑧⑨⑩⑪⑬⑮ ⑰⑱⑲⑳㉑	◆わらわの中の神 ◆言葉の組み立て ★ニュース番組制作の現場から ◆工夫して発信しよう/編集して伝える					◆わたしたちの生活と情報 1.放送局の働き (新聞が読めるまで)						⑧⑨ ⑭⑯ ⑰	2.つくり方を調べよう						⑱ ⑳ ㉑	・杉みき子の著書 ・放送に関する図書
IV ⑦ 読んだ図書について紹介する	12月	④⑥⑦	★ねぎぼうず/ケムシ-耳/割		⑧⑨ ⑩⑪ ⑭⑯ ⑰	◆てことつり合い ・てこの利用		2.情報と社会						⑧⑨ ⑭⑯ ⑰	3.楽しくつってたくさん使おう 自由研究							・いろいろな詩集
精進C ◆効果的に表現する	1月	① ⑮	◆物語を作ろう ◆言葉や表現のちがいを	⑬ ◆割合 ・割合の意味 ・百分率の意味 ・帯グラフ, 円グラフ				◆わたしたちの国土と環境 1.さまざまな自然とくらし					⑧⑨ ⑭⑯ ⑰	◆くふうしよう!おもしろ 1.身の回りの物を見直そう 2.身の回りをきれいにしよう							⑱ ⑳ ㉑	・日本の自然, 国土, 環境に関する図書
I ⑧ 学校図書館の利用	2月	⑩⑫	◆同じ読み方の熟語					2.わたしたちの生活と環境						⑧⑨⑪ ⑭⑯ ⑰	3.不用になった物を生かそう							・熟語に関する図書
I ⑨ 各種文化施設の利用	3月	①②④⑥⑦	★大造じいさんとガン					3.わたしたちの生活と森林	・物語と音楽 流れメロス					⑧⑨⑪ ⑭⑯	4.品物の買い方を考えよう 環境を考え, 家庭生活をくふうしよう							・椋鳩十の著書
I ⑩ 図書資料の使い方 事典等																						
II ⑪ 図書資料の使い方 新聞, 雑誌等																						
II ⑫ 図書資料の使い方 国語辞典, 漢字辞典																						
II ⑬ 図書資料の使い方 統計, 年鑑等																						
II ⑭ 実物掲示・展示資料等の使い方																						
II ⑮ 人的情報源の利用																						
II ⑯ 視聴覚メディアの利用																						
II ⑰ 電子メディアの利用																						
II ⑱ 複数の情報からの 取捨選択, 整理の 仕方																						
II ⑲ 文章のまとめ方																						
III ⑳ 抜き書き, 切り 抜き資料を使った まとめ方																						
III ㉑ 写真や絵, 図表 等を使ったまとめ 方																						
III ㉒ 発表の仕方																						
III ㉓ 発表の聞き方																						